

國學院大學學術情報リポジトリ

岩手県洋野町中野方言のアクセント調査報告： 降り核の方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學国語研究会 公開日: 2025-06-02 キーワード (Ja): 岩手県中野方言, アクセント, 降り核, 解釈, 資料 キーワード (En): 作成者: 上野, 善道 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001710

岩手県洋野町中野方言のアクセント調査報告 ——降り核の方言——

上野 善道

キーワード：岩手県中野方言、アクセント、降り核、解釈、資料

1. はじめに

標記の中野方言が「降（くだ）り核」を持ち、 $P_n = n + 1$ の対立のあるアクセント体系であることを示し、その700語ほどの名詞アクセント資料を提示する。

調査対象地域の地理的・歴史的概況から始める。岩手県九戸郡洋野町（くのへぐん ひろのちょう）は、県の最北端で三陸沿岸部にある。その北は青森県で、三戸郡階上町（さんのへぐん はしかみちょう）を経て八戸市に繋がる（洋野町は江戸時代は八戸藩であった）。南は久慈（くじ）市に接する。洋野町は旧種市町（たねいちまち）と旧大野村（おおのむら）が2006年に合併してできたもので、対象となる中野地区は旧種市町（/タネー_Lヂ/）に属し、1955年までは旧中野村であった。旧村内の集落は北から順に、小子内（おこない、/オゴネ_Lァ/）、有家（うげ、/ウ_Lケ°/）、中野（/ナガ_Lノ/）に分かれ、明治22年まではそれぞれ別村であった（括弧内の// は本稿の解釈によるアクセント表記で、/_L/ は降り核、/°/ は無核。第4節参照）。

本稿の研究対象は、その集落名の「中野」の方言である。現在、約700世帯、2,500人。中野小学校、中野中学校がある（なお、有家も小中学校とも同じ学区。小子内はかつて中学校のみ中野中の学区であった）。2022年末までは洋野町役場の中野支所があった。最寄りの鉄道駅は JR 八戸線の陸中中野駅である。（ここまでの記述は、洋野町の HP と後述の中野方言話者からの情報を基にした。）

この中野集落は、方言、とりわけアクセントが、北隣の有家や小子内とも、南隣の久慈市侍浜（さむらいはま、/サブレアハマ=/）とも異なっていることで知られる地域である。単に周りと異なるだけではない。実は、筆者のこれまでの日本語諸方言アクセント調査の中で初めて接した「降り核」のタイプである。コロナで3年間の中断があって、まだ一通りの概要を掴んだ状態で課題も多いが、その解釈を踏まえた初期報告をする理由である。

2. 先行調査研究

ここの「調査研究」は、音声録音資料やアクセント記載のない方言集も含めて扱うことにする。以下が管見に入ったものである。

私の知る限り、中野方言アクセントを取り上げた最初の論文は柴田武(1961=1988)である。su, zu, cu だけの「ズーズー弁」である盛岡方言とは異なり、中野方言は si, su, sju ; zi, zu, zju ; ci, cu, cju の区別をもつ「非ズーズー弁」であるとして、同類の下閉伊（しもへい）郡小本（おもと）字茂師（もし）方言、sju のみを欠く同岩泉町安家（あつか）方言と並べて示した後、アクセントはこれらの方言とも大きく異なるとして、(1)の表を挙げている。話者は明治28年と大正12年生まれの二人。ただし「音韻論的解釈を加えないものを示す」とある(1988: 434-435)。原文は傍線式であるが、入力の関係で〔(上昇)〕〔(下降)〕に変えて示す。(本稿に関係しない盛岡市方言の音調の細部などは問題としない。)

(1)	中野	安家・茂師・小子内・盛岡
第Ⅰ類（鼻・口・爪）	○[○]○	○○[○
第Ⅱ類（橋・川・石）	○[○]○	○○[○
第Ⅲ類（花・月・草）	[○]○○	○[○]○
第Ⅳ類（箸・稲・種）	○○[○	[○]○○
第Ⅴ類（汗・秋・春）	○○[○	[○]○○

類の統合の仕方は、いずれも同じ「Ⅰ・Ⅱ / Ⅲ / Ⅳ・Ⅴ」で、東京方言とも京都方言とも異なるが、第Ⅲ類の音調型は「京都方言と一致するので」と

して、「中野部落のアクセントは、(中略) 一種独特なものをもっているように思われ、中野のみが上方訛だといわれている(『中野村誌』191頁)」を引用している。

そして、「もし中野から安家などへ変わったとすると、アクセントの山が一つずつずれるという変化の結果だと説明できる。逆に、安家などから中野へ変わったとすると、アクセントの山が一つずつ前へ寄るという傾向の変化だと説明することができる」(1988: 435) と、いわば課題を述べてアクセントの記述は終わり、最後に、やはり周辺にはないという過去形の特殊な用法「見てアた」(下線原文)の類を同村誌から引いている。

録音音声資料としては、日本放送協会(1967)がある。この中に中野方言の対話音声が取録されており、ここにも柴田武による解説(1967=1988)が付いている。そして、問題の上記の変化は、中野アクセントが「盛岡式アクセント【中略】のアクセントの山が一つずつ前へせりあがることによって生まれたものと思われる。」としている(1988: 277)。その論拠は書かれていない。その後続く文法現象の記述は詳しくなっている。

さて、柴田(1961)を読んで関心を持った私は、弘前大学在職中の1977年3月に中野、有家、小子内、さらにはその北の種市町八木や南の久慈市侍浜等の調査を初めて行なった。明治後半から大正生まれの話者を紹介してもらい、1時間余りずつ聞いたが、中野方言は把握が難しく、体系の目処がつくところまでは行けなかった。日本学士院(服部四郎)から調査費用の支給を受けていたことで提出した報告には、むしろ琉球方言との関係で注目される(2)の例を中心に書いたと記憶する(まだ手書きの時代で、控えは取らなかった)。

(2) アーギ(秋)、タービ(足袋)、ハーリ(針)、ハール(春)、ヘービ(蛇)、マーズ(松); ナーズ(夏); ホダール(螢); コブ(蜘蛛)

これが、服部四郎(1979=2018: 362)に(3)の形で引用されている²(地名のルビは省略)。

(3) 1977 (昭和52) 年の春に、上野善道君が、岩手県の東北海岸の九戸郡種市町 (今の洋野町) と久慈市との境界付近の6地点の方言で、[マーズ] (松)、[ハーリ] (針)、[ナーベ] (鍋) という形や[コブ] (蜘蛛) という形を発見した。【この[]は音声記号の意。】

この中野を中心とするアクセント調査は心残りであったが、翌4月から金沢大学に転勤したこともあり、そのままとなってしまった。それから40年以上経った2019年7月に、大野眞男氏 (岩手大学教授、現名誉教授) と竹田晃子氏 (現岩手大学准教授) から三陸沿岸部を車で回る調査のお誘いを受け、一緒に中野、有家、小子内、および旧種市町鹿糠 (かぬか) のアクセントを調査する機会を得た³。洋野町教育委員会から紹介された各地点1名の話者は、当然ながら全員が初回とは入れ替わっている。中野の話者は、第3節で詳しく紹介する柳清水 (やなしみず) 廣作氏である。その12月には同氏の2回目の調査ができた (この段階からは単身調査)。その後はコロナで空白期間が続いたが、2023年6月になってやっと再開に至り、9月にも実施できた。本稿の資料はすべて柳清水氏から得たものである。

中野方言の先行研究としては、他ならぬ話者自身によるものもある。中野地区コミュニティ協議会 (2016a, 2016b) の2編で、ともに氏から提供を受けた。前者 (2016a) は柳清水氏の執筆による平仮名見出しによる方言集で、長音は「ー」で示すが、ガ行鼻音だけはワープロ入力ができず、表示を諦めたとある。『種市町史』と『アイヌ語辞典』に基づいて作成したという「アイヌ語と日本語 (地域語) との相似」も付す。後者 (2016b) は、柳清水氏の発案・人選・実施により前者の別巻として作成された録音音声で、70代男性2人、および70代女性2人のそれぞれの中野弁対話例と、その文字化資料からなる。これらはまだ活用するに至っていないが、方言集については、氏自身の発音で録音し、そのアクセントも記録する機会があればと思う。

その中野地区コミュニティ協議会 (2016a) にある氏の「あとがき」には興味深い記述があるので、(4) に引用したい (【 】は私の補足)。

(4) 中野地区だけが独特だと言われる語調や抑揚についても調べたが、【平家の】落人説、近江商人説等の言い伝えだけで確かなものは知り得なかった【氏とのやり取りの情報では、田村麻呂伝説、アイヌ語基層説もこれに準ずる】。ただ、テレビ等で音声を聴くかぎり、沖縄や近畿地方（滋賀・京都）、それに朝鮮語等のイントネーションに疑似しているところもある。また、岩手の山田町の一地域にもよく似た発音があることも知った。

何故中野弁だけが隣接地域と相違しているのかについては、南北に大きな峡谷と河川があって人的交流が少なかったのと、それに伴った閉鎖的な地域性が根付いてきたのが要因ではなかろうか。

前半の類似点については、母語話者の直感的印象として参考情報となる。特に重要なのは後半で、有家川と高家（こうげ）川が流れる2つの大きな谷に挟まれた地形を考えると、その特異性を外的な要因よりも内的な要因に求める考えに私も賛同する。この地形の状況は、両側を深い谷で隔てられた下閉伊郡田野畑村のよく似た状況（拙論2019）をも思い起こさせる。そして、この見方は、語調や抑揚についても有効だと考える。

もう一つ、未刊と見られるので具体的な内容まで立ち入ることはできないが、一言触れておくべきものがある。それは、岩手県立大学宮古短期大学教授の田中宣廣氏が10年程前から同じ柳清水氏に就いてそのアクセントを調べていたことである。柳清水氏から私も調査中との情報を得たとして、2023年3月10日にメールが届いた。そこには、自らの研究状況の報告とともに、岩手県内の重起伏調アクセントの貴重な分布図と、その一つである中野方言が周辺とは異なる言語の島であり、その高低が周りとは体系的に逆になっていることを音調図で示した表が添えられていた。その10日後には、中野方言の音調型の誤記の訂正と、音韻解釈の修正案が届いた。どちらにも執筆論文自体は含まれておらず、未見である。

その表を私の調査結果と照らし合わせると、一部の音調型や対立数、アクセント核の認定に異なる点があるが、論文が未公開である以上、具体的な言及は差し控える。

なお、成稿後に、先行研究の大きな見落としに気が付いたので、第6節も参照されたい。

3. 話者

改めて本稿の話者を少し詳しく紹介する。(5)の方である。

(5) 柳清水廣作（ヤナシ_Lミズ_Lコーサク）氏、1941（昭和16）年、中野生まれ。ご両親、奥様も中野出身。旧種市町の郵便局にご勤務の後、10年間の県内花巻市在住を経て、現在は中野で洋野町町史編纂委員等を歴任。

付け加えておきたいのは、氏の子供時代は文久2（1862）年生まれの曾祖父と明治4（1871）年生まれの曾祖母と一緒に生活をしていて、その時代の古い方言に接し続けておられたことである⁴。現在望み得る、最も古い方言情報をお持ちの方に違いない。

その一方で、郵便局勤めの間に共通語も身に付けたということで、中野の人とは中野弁で話すものの、他の人とはアクセントまで周辺地域的なものに変えた話し方になる。そのため、調査の際も、私とはまずは中野アクセント以外でやり取りをし、こちらで改めて求めると中野アクセントに切り替えて答えてくれるのが普通である。加えて、その説明も、時にはその中の単語の丁寧な発音までも、非中野アクセントでということがあり、調査中は音調型や対応関係を意識しながらどちらのアクセントなのかを考えて記録する必要があるという状況である⁵。このことから、文レベルの音調観察には、また別の方法を考えなければならない。

これまでに柳清水氏に伺った調査内容は、これまで諸方言で用いて来た、「アクセント分布調査票（A）」と「外来語アクセント調査表」（いずれも私家版）に依ったものである⁶。

4. アクセントの分析

導入部が長くなったが、アクセントの分析に入る。2モーラ語、3モーラ

語、4 モーラ語、5 モーラ語、1 モーラ語の順に代表例で型一覧を示す。付けた助詞は注6を参照。紙幅の関係で4 モーラ語の「カラデモ」は略すが、規則的である。5 モーラ語は調査表語彙の関連語として得られたものだけでは型が揃わないので外来語を中心としたが、欠けていた5-0と5-5は「カナヘービ（トカゲ）」と「飾り物」を援用した。

音調は、[: 上昇、]: 下降、!: 半下降、[: 拍内上昇、]: 拍内下降、!!: 拍内半下降で示す。簡略表記であるが、必要に応じて本文で少し詳しく記す(ゝについても同様)。音声表記のカ[°]行は鼻音で、口音のガ行とははっきり区別される。

4.1 言い切り形

言い切り形（、で示す）から始める。それを（6）に示す。

(6)	単独、	モ、	カラ、	カラモ、	カラデモ、
2-0 鼻	[ハ!ナ、	ハ[ナ!モ、	ハナ[ガ!ラ、	ハナガ[ラ!モ、	ハナガラ[デ!モ、
2-2 花	[ハ!ナ、	[ハ]ナ[モ]],	[ハ]ナガ[ラ]],	[ハ]ナガラ[モ]],	[ハ]ナガラデ[モ]],
2-1 雨	ア[メ]],	アメ[モ]],	アメガ[ラ]],	アメガラ[モ]],	アメガラデ[モ]],
3-0 魚	サ[ガ!ナ、	サガ[ナ!モ、	サガナ[ガ!ラ、	サガナガ[ラ!モ、	サガナガラ[デ!モ、
3-3 男	オ[ド!ゴ、	オ[ド]ゴ[モ]],	オ[ド]ゴガ[ラ]],	オ[ド]ゴガラ[モ]],	オ[ド]ゴガラデ[モ]],
3-2 命	[イ]ノ[ヂ]],	[イ]ノヂ[モ]],	[イ]ノヂガ[ラ]],	[イ]ノヂガラ[モ]],	[イ]ノヂガラデ[モ]],
3-1 鼠	ネズ[ミ]],	ネズミ[モ]],	ネズミガ[ラ]],	ネズミガラ[モ]],	ネズミガラデ[モ]],
4-0 梅干	ウメ[ボ!シ、	ウメボ[シ!モ、	ウメボシ[ガ!ラ、	ウメボシガ[ラ!モ、	
4-4 蛾燭	ロー[ソ!グ、	ロー[ソ]グ[モ]],	ロー[ソ]グガ[ラ]],	ロー[ソ]グガラ[モ]],	
4-3 玉葱	タ[マ]ネ[キ [°]]],	タ[マ]ネキ [°] [モ]],	タ[マ]ネキ [°] ガ[ラ]],	タ[マ]ネキ [°] ガラ[モ]],	
4-2 手袋	[テ]ブグ[ロ]],	[テ]ブグロ[モ]],	[テ]ブグログ[ラ]],	[テ]ブグログラ[モ]],	
4-1 松茸	マツタ[ゲ]],	マツタゲ[モ]],	マツタゲガ[ラ]],	マツタゲガラ[モ]],	
5-0 蜥蜴	カナ[ヘー!ビ、	カナヘー[ビ!モ、	カナヘービ[ガ!ラ、	カナヘービガ[ラ!モ、	
5-5 飾り物	カザリ[モ!ノ、	カザリ[モ]ノ[モ]],	カザリ[モ]ノガ[ラ]],	カザリ[モ]ノガラ[モ]],	
5-4 ボルトガル	ボル[ト]カ [°] [ル]],	ボル[ト]カ [°] ル[モ]],	ボル[ト]カ [°] ルガ[ラ]],	ボル[ト]カ [°] ルガラ[モ]],	
5-3 ハーモニカ	[ハー]モニカ[カ]],	[ハー]モニカ[モ]],	[ハー]モニカガ[ラ]],	[ハー]モニカガラ[モ]],	
5-2 サロンパス	[サ]ロンパ[ス]],	[サ]ロンパス[モ]],	[サ]ロンパスガ[ラ]],	[サ]ロンパスガラ[モ]],	

5-1 アンケート アンケー[ト]], アンケート[モ]], アンケートガ[ラ]].

1-0 血	[[チ,	[チ!モ,	チ[ガ!ラ,	チガ[ラ!モ,	チガラ[デ!モ,
1-1 手	[[テ,	テ[モ]],	テガ[ラ]],	テガラ[モ]],	テガラデ[モ]].

いくつかの音調型につき、揺れの現象も含めて説明をする。n-0と n-n (2-2, 3-3, 4-4など) の単独形は、普通は区別がない。これがもっとも安定していて、よく出る発音である。ただ、両型を比べて発音してもらうと、時々違った発音をすることがあるが、調査のたびに揺れて不安定である。例えば、特に2-2「花」は、ハの後で一端下がったナが中程度から上昇して2-0の「鼻」と区別（しようと）することもあった。一度は、「花」のナが下降調で出たこともあり、その時は逆の順に聞いたら「鼻」の方まで同じになった。

これらの現象は、東京方言でかつて問題とされた「鼻」と「花」が単独で同じかどうかの論争と同じことで、単独発音でも一貫した区別を見せる方言もあるものの、揺れを見せる方言の場合は、単独発音だけで異同を論ずるのは意味がなく、次に続く付属語なり自立語なりへの音調の動きの異同を見る必要がある。そもそも単独の発音と言っても、話者の頭の中では何らかの助詞付きの発音を想定したりすることがありえ、さらにはその助詞の種類や有無も同じとは限らず、また、どうしても「鼻」と「花」などの最小対の対比だと「区別」が強く意識される、等々のことが話者の発音に影響しうるからである。

これは1-0と1-1についても当てはまる。ここでも細かな揺れはあるが、全般に下降が現れにくく、ともに中程度から上昇するように聞こえることが多いので、そのようにまとめて記した。ただ、3モーラ語以上は末尾2モーラの音調はかなり安定して聞こえた。

今一つ、これは3-0と3-3に限られるが、末尾ではなく、出だしの音調の異同が問題となり得る。最初は3-3の出だしが高いか高めで、[オド!ゴなどと記録し（「鏡、袋」なども同様）、そこが低い3-0のサ[ガ!ナとは単独でも区別があるように聞いた。しかしながら、類別や近隣方言との対応から同型と

見られる語彙を増やしていくと、語頭の低い発音もよく現れた。4.2節に見るように、(6)の体系全体を考慮すると語頭2音節が続けて高くなるか否かは弁別的ではないと判断し、本稿では一律にオ[ド!ゴのように表示することにした。(この初頭の高まりは4-3のハ[ヂ]ノ[ヘ])(八戸、地名)やス[ク°]ヘハ[ル])(すぐ入)などの下線部でも観察される。文節の3モーラ目に降り核のある例である。)

ただし、3-3の語頭重音節は、[カン!ナ、[カン]ナ[モ]](鉤)、[ヌイ!メ、[ヌイ]メ[モ]](縫い目)、[ミッ!ツ、[ミッ]ツ[モ]](三つ)、さらには無声化によって事実上のCVCになる単語も[タス.!ケ、[タス.]ケ[モ]](助け)などと語頭重音節全体が高くなるが、これは3-0型でも[ショー!ジ、ショー[ジ!モ(障子)、[ミッ!カ、ミッ[カ!モ(三日)、[ムス.!コ、ムス.[コ!モ(息子)で、重音節全体で行動する点では同じである。

音調の細部を論すべき型はまだあるが、一旦ここで(6)から考えられる体系の仮説を述べ、その後で再度、音調の細部の補足をするにすることにする。

4.2 解釈案

先の(6)で型が網羅されているとすると、単独形では同じとしたn-0とn-nも助詞を付けると完全に区別され、他の型も相互に区別があることが自明なので、全体として $P_n = n + 1$ の対立数を持つ体系であることが分かる。そして、n-0型は2モーラ以上の文節の次末モーラで上がり、末尾モーラで半下降するパターン(-[○!○])で一貫する。ここでも文節次末モーラが重音節の後部要素の場合は、カナ[ヘー!ビ、カナヘー[ビ!モ(蜥蜴)のようにその音節全体が高くなる。

では、n-0以外の型は、相互にどこで弁別されているのか。n-nについてはn-0と区別される助詞付き形を参照しながら残りの型と比べると、「最初に低くなるモーラの位置」で相互に区別されていることが分かる。4モーラ語の例で言えば、4-4ロー[ソ]グ[モ]]、4-3タ[マ]ネキ°[モ]]、4-2[テ]ブグロ[モ]]、4-1マツタゲ[モ]].の下線を付した部分である。この位置(n-の後の数字は、実はそれを語頭から数えたもの)で型が相互に区別されている。そして、n-0ではその部分がない。すなわち、上記単語の下線部にア

アクセント核があってその位置で相互に弁別されており、n-0 はアクセント核がない無核型と見ることができる。

無核型は、前述のように、文節全体に被さる型が決まっていて、2 モーラ以上の文節の次末モーラで上がり、末尾モーラで半下降するパターンで一貫している。全体に被さるパターンだけが決まっていて、固有の位置情報を持たない型は語声調と言ってもよい（川上 泰2000なども参照）。

それに対して有核型は、単語ごとに低くなる位置が指定されている。そして、その核はその位置で低くなる「降（くだ）り核」(/_L/) だと考える（後に再述）。そして、これらの核の位置は、例えば隣の有家方言の「昇り核」(/_H/) の位置と一致する。両方言を並べて、4 モーラ語の例で（7）に示す（無核型も一緒に掲げる）。

(7) 中野：/(ウメボシ=、) ローソ_Lグ、タマ_Lネキ°、テ_Lブグロ、_Lマツタゲ/
(降り核)

有家：/(ウメボシ=、) ローソ_Hグ、タマ_Hネキ°、テ_Hブグロ、_Hマツタゲ/
(昇り核)

中野アクセントをこう捉えようと、降り核の後の音調は、可能な限り低く続き、言い切り形の文節末モーラで上昇してすぐその中で下降する((₋)_L○(…)[○]).)。これは、次の文節まで続くことがないと見られるので、核の後の「(言い切り形) 文節末音調」と考えられる。そして、無核型には適用されないの、核と連動しているものとなる。

ここで検討すべき課題がいくつかある。まず、語末核の n-n 型が、本来ならその語末モーラが低く実現するはずなのに、なぜ単独言い切り形で低くならず半下降で出ているのか、である。これは、有核型に一律にかかる言い切り形の文末音調——この場合は _L○[○]——がその語末モーラに圧縮して被さっているからだと考えられる。（さらに、通時的には、その元の体系もまた n-0 と n-n とが同じ音調になっていたことも、現在、事実上同じ音調で実現する役割を果たしたものであろう。）

次に、語末2モーラが軽音節連続の場合は(6)で見たが、注意すべきは、ここが重音節のときは、それを割って半下降が生ずる場合(n-0とn-n)と、重音節全体が下降調を取る場合(それ以外)の区別が型によってある点である。前者はモーラ単位で次末モーラは高く、語末モーラは途中で下降を急に止めて自然下降を起こさないようにし、しかも少し長めに発音をする(半下降)。対して後者は、重音節全体が緩やかな弧を描くようにして最後まで下降する。この違いは単独で聞き取ることができ、続く助詞の振る舞いも予測可能である(半下降終わりの場合はn-n型とn-0型の2つの選択肢が残り、この後の「南蛮」と「向こう」の例のように、どちらかであるかは助詞付き形などでの確認が必要ではあるが)。

今、「南蛮(唐辛子)」(4-4)と「座蒲団」(4-2)を例にとると、ナン[パ!ン]に対して[ザ]プ。[トン]と書ける違いが単独発音にもある。助詞付き形はナン[パン[モ]]対[ザ]プ。トン[モ]で、より明瞭に異なる。また、モ[ゴ!ー(向こう、3-0) 対カ[レー]](鰈、カレー、3-1)ではモ[ゴ!モ対カレー[モ]]に、そしてナ[メ!ァ(名前、3-0) 対タ[レ!ァ]](鹽、3-1)はナ[メ!モ対タレ[モ]]になる⁷。

一方で、末部ではなく頭部の方は、第1モーラに降り核があれば当然低く始まるが、第2モーラ以降に核がある場合、その前の1音節だけが高くなる。第2モーラに核があれば当然第1モーラしか高くなれず、1重音節全体が高くなるのは核が第3モーラ以降の自立モーラにある場合に限られる。[エァ]ダ[モ]](間/エァ_Lダ/)、[カン]ナ[モ]](鉤/カン_Lナ/)、キン[ノー]ナ[モ]](昨日/キンノー_Lナ/)などである。

なお、上記最終例と別形のキン[ノ]ー[モ]](昨日/キンノ_Lー/)を比べても分かるように、特殊モーラでも核を持つことができる。[メー]コ[モ]](姪っこ/メー_Lコ/)に対する[メ]ー[モ]](姪/メ_Lー/)、また、/マ_Lーヅ/(松)などの(2)(3)に絡む諸例、さらには/キ_Lネンビ/(記念日)、/カン_Lナ/(鉤、糸)に対する/セ_Lンセー/(先生)、/ナンバ_Lン/(南蛮辛子)などがある。

次は、語頭と語末の両特徴を併せ持つ1重音節語を見てみよう。ここは最

小対が見つかるので、それを例に説明をする。「盆」は、「盆と正月」の意味では[[ボン]]、食器などを載せる方は[ボ!ン]で、単独形でも区別がある。前者は最初わずかに上昇してから緩やかに弧を描いて下降するのが特徴である。その後半部は[ザ]プ。[トン]](座蒲団)やゴン[ボー]](牛蒡)などの後半と同じであるが、1音節語は語頭がやや低く始まって少し上昇するのである。これを[[を前に付けて簡略表記することにする。これに助詞が付くと、ボン[モ]]という語頭核型の規則的な形になる。後者の方はこれまでと同じで、高く始まって半下降する型で、助詞付きは[ボン!モ]である。ここから、前者は /_Lボン /、後者は / ボン = / と解釈される。

ここで疑問となるのは、語頭に降り核があってそこが低いはずなのに、なぜ高めの所から始まって上昇し、それから緩やかに下降していくのか、という点であろう。これは、2音節以上の語頭降り核型の重音節終わり語は低く始まって語末の重音節で高くなって緩やかに下降するが、1音節語の場合は、その限られた領域の中で文節末音調に加えて降り核の特徴が重なった結果が語頭のわずかな低まりとなって実現しているものと見る。1重音節無核型の方は2モーラあるので、規則的に[ボ!ン、[ボン!モ]となる。

ちなみに、1軽音節語の場合の実現形は、1-0型の場合は○[○!!]を、1-1型の場合は○[○]]を、それぞれ1モーラの中に圧縮した形だと見る。(ここでも、通時的には元の段階で単独形は同じになっていたことが関与した可能性も十分ある。)

最後に、この[[○○]]が語中に現れる例を見てみる。これは(8)のように、(今回は資料篇に含めないが)外来語や用言に頻出する。いずれも語末が重音節で、かつその直前音節が高くなっている点が共通する。Cf. の後の語頭核の例とは異なる。ゝは(8)の直後に説明する。

(8) [サゝイン]]、[バゝレー]]、[フゝライ]]、ガ[ソゝリン]]、パ[トゝカー]]、
 ペニ[シゝリン]]、カン[カゝルゝ]]、オー[トゝバイ]]、ツベル[クゝリン]]、
 ダブル[ブゝレー]]；[センゝセー]](先生)；[オゝモー]](思う)；[ワゝリー]]
 (悪い) Cf. カ[レー]]、カー[テン]]

ここに[サゝイン]]のように記したのは、ここまでの本稿の方式では[サ] [[イン]]とでもすべきところであるが、煩雑になるので上付きのゝを1つだけ与えた。その音調は、高くなったサの後で少し下がってイが始まり、少し上昇した後、音節全体がカーブを描いて下降する形である。サとイの間に軽い凹みができるのでゝとした次第である。他にも、サよりもイが少し下がってそのまま全体がカーブ状に下降することもある。いずれの場合も、あるいは時にそれらの特徴が認めにくいときでも、サとイに強めが感じられるのが特徴である。要するに、素直にサからイへと続いてはおらず、そこに何らかの歪み・ねじれの感じられる音調で、その型の確認の際の話者とのやり取りには、「ねじれ」や「こもる」という主観的表現を使って意思疎通をしている。

これらは、助詞を付けて（用言は活用させて）みるとその性質がよく分かる。[サ]イン[モ]]、[バ]レー[モ]]、[フ]ライ[モ]]、…、ダブル[プ]レー[モ]]、そして[セン]サー[モ]]であり、また[オ]モッ[タ]]、[ワ]リー[モ!ノ(物)]で、間の重音節がはっきり低くなる。すなわち、/サ_Lイン、バ_Lレー、フ_Lライ、…、ダブルプ_Lレー；セン_Lサー；オ_Lモ；ワ_Lリー/であり、単語の次末モーラに降り核があり、その特徴と有核型言い切り形の文節末重音節音調が合体した-○_L[○○]]の姿が（８）だと解される。言い換えれば、ゝのところに、降り核が潜んでいるのである。（Cf. のカ[レー]]等はカレー[モ]]等で、/カレー/等の語頭核。）

4.3 接続形と降り核の論拠

助詞付きを中心とする接続形の一部を（９）に示す。「ト、モ、ノ」の助詞の他、「他」は目的格の時は直前の母音を伸ばし、主格の時は-a（ア）を付けるものを便宜的にまとめた（これまでのところ、ハダカ格にはならないようである）。用例のアクセント型との組み合わせの関係で、一部は（６）の言い切り形とは別の単語を掲げる場合もある。紙幅の関係で意味を示す漢字は最小限とし、自明なところは時に略した。

1-0 血 / 日 [チ]ド[ミ!ズ(水), [チ]モデ[ダ]](出), [チ]ノ[イ!ロ(色), [シ]アデ[ダ]](出),
1-1 手 / 絵 / 火 テド[ア!シ(足), エ[モ]ケア[ダ]](描), テノ[カ!ダ(形), シ[ア]デ[ダ]](出),

(10) 前部	助詞付き言い切り形	同接続形	後続環境
無核型:	(-) [○!○.	(-) [○]○	環境問わず(語頭核でも同じ)
有核型:	(-) <u>○(…)[○]</u> .	(-) <u>○(…)[○</u>	語頭に降り核 (/ <u>○(…)/</u>)
		(-) <u>○(…)</u> ○	その他(語頭核以外。無核も含む)

そもそも、下線は先行名詞に付いた助詞が高くなっている例に引いたもの

である。つまり、有核型は、3モーラ語だとオ[ド]ゴ[モ]、[ア]サヒ[モ]、ウサキ°[モ]と言い切り形では助詞が高くなって直後に急下降するが、接続形においてその助詞の上昇がオ[ド]ゴ[モ]、[ア]サヒ[モ]、ウサキ°[モ]と保たれるのは直後に語頭降り核語が続いているときだけで、それ以外はオ[ド]ゴモ、[ア]サヒモ、ウサキ°モと助詞は低くなるのである。それは、「兎」=「鼠」の同アクセントでありながら、(9)の「兎と亀」を「鼠と猫」に代えると、ウサキ°ド[カ!メからネズミ[ド]ネ[ゴ]]に変わってしまうことでも分かる。(9)にはない「から」の例でも、オ[ド]ゴガラハジ[メ!ル(始める/ハジメル=)]に対して、[コ]ゴロガ[ラ]カンシャ[ス!ル(心/コ!ゴロ/、感謝/!カンシャ/、する/スル=)]、オシロガ[ラ]ク[ル]](後ろ/!オシロ/、来る/!クル/)と助詞の末尾モーラが高くなる。オ[ド]ゴ[ア]キ。[タ]](男が来た)、オ[ド]ゴ[ー]ミ[ダ]](男を見た)のように、核のあるモーラがその一部となる重音節においてはその助詞相当のモーラ(アとー)の上昇幅は時にやや小さいが、それでも上昇は起こる。

このことは、後部文節の語頭が「降り核」であると見る根拠となる。核が第2モーラ以降にある場合は、その単語内でその直前の音節との高低変動があるので前部文節は関係ない。下線部の特徴は、後部文節の初頭の降り核が、文節境界を跨いで前部文節の最後との間に音調の下降変動を形成している点である。

なお、後続する語頭降り核語が先行する無核型に関与しないのは、無核型が「全体の形」をその本質として持っていることに起因するものと考えられる。そのために、言い切りと接続で文節末モーラの半下降と下降の交替を見せるだけにとどまり、後部文節初頭の降り核の影響を受けずにいるものとする。

以上の考察から、中野方言は、「降り核」の有無と位置でもって $P_n = n + 1$ の型を区別するアクセント体系であるという結論が得られる。

4.4 残る課題

以上、本稿の主張したい事柄を述べて来たが、まだ初期報告であり、中野方言アクセントについてなすべき課題は多い。ここでは、そのうちの2点を

取り上げる。

4. 4. 1 無声化とアクセント

1つは無声化の影響をどう解釈するかである。

例えば、第1モーラの母音が無声化する「草、鹿、舌」などは、語類や他方言との対応からは /ク_oサ、シ_oカ、シ_oタ / が予想される（敢えて音韻表記の中に無声化の印も付す）。しかし、以下は「草」で代表させると、その単独形の実現は [ハ!ナ（花）とは違ってク。[サ（サはやや長めで、時に軽い上昇調も）]であり、助詞付き形や連文節では [ハ]ナ[モ]]、[ハ]ナガ[ラ]]、[ハ]ナガラ[モ]]、[ハ]ナ[モ]ア[ル]]、[ハ]ナモ[サ!グ（咲く）]などとは違い、ク。サ[モ]]、ク。サガ[ラ]]、ク。サガラ[モ]]、ク。サ[モ]ア[ル]]、ク。サモ[ヌ!グ（抜く）]となる。単独形を除けば、あたかも語頭核 /_Lク。サ / であるかのような振る舞いである。

しかしながら、単独形は、/_Lク。サ / なら何の困難もなく発音できると予想されるク。[サ]]ではなく、ク。[サ]である。それを論拠に /ク_oサ / と解釈し、上記の形は、*[ク。!サ、*[ク。]サ[モ]]、*[ク。]サガ[ラ]]、*[ク。]サガラ[モ]]、*[ク。]サ[モ]ア[ル]]、*[ク。]サモ[ヌ!グが、ク。の無声化によってそこを高く発音するのが難しいために低く実現しているものと解釈する。

ただし、その中で*[ク。!サだけはサに高さが移っているのに対して、他はただその部分の高さが消えているだけである。これは、2モーラ語単独形において核のあるサも低くなると、低平調というこの方言の言い切り形では許されない型になるからと見る。助詞付き形の場合はそういう制約はなく、無声化したクはそのまま低く実現することが可能である。

今のところ、名詞の中でク。[サと対立する○。[○]]の確例は得られていないが、上記の現象と、本節冒頭に述べた対応関係(有家方言では /ハ[ナ、ク。[サ、シ。[カ /、「舌」は未調査) であることから /ク_oサ / と見る。

以上でこの問題は一先ず解決したかと考えるが、一般論としては、高いピッチであれば無声化と共存し難く、衝突した場合にどのような形で隣接音にその高さを回避させるかが問題となり、特に下げ核の場合は該当方言例が多い

だけに、それなりに分かっている。しかしながら、降り核と無声化の場合は、その部分は低くなることを求めるので共存可能なことが当然であるだけに、それが周りの音にどのような影響を与えるのか、あるいは与えないのか、条件によるのか、そういう情報はこれまでなく、今後の課題である。

その中で、ここまでで一つ分かっているのは、[ムス。! コ (息子) のように語中で高い直前モーラに続いて CVC 音節相当全体が高くなる場合を除けば、無声化モーラは核とは無関係に必ず低く実現するということである。例外は見つかっていないのみならず、次の現象が目を引く。指示詞の「この、その、あの」は[コ!ノなどの無核型であるが、「上、内、下、人」(いずれも無核型)等と一体で頻用される定形的表現は1単位的にもなる。[ソ]ノ[[ウェとソ[ノ!ウェ (その上) との併用における後者の例である。ここで、語頭モーラが無声化する「下、人」の場合は、助詞付き形はソノシ。[タ!サ (その下に)、アノフ。[ト]モ (あの人も) でありながら、2モーラ名詞だけで言い切ると、ソ[ノ]シ。[タ、ア[ノ]フ。[トと実現するのである (併用で[ソ]ノシ。[タ、[ソ]ノシ。[タ!サ等もある)。これについては、次節後半で検討する。

4. 4. 2 降り核の順行性・逆行性の問題

より重要なのは、設定した「降り核」が、音声の進行順に(順行的に)高い所から低い所への変動をするのか、それともその逆(逆行的)に、後ろから前に働きかけて変動を生じさせるのか、という問題である。前からの流れを受けて自ら積極的に下がって高低差を付けるのか、それとも逆に、前の方を高くすることによって自らとの間に高低差を付けると捉えるべきか、ということである。これは、私にとっては古くからの課題だとも言える面がある。

ここで、その問いの前提になる、降り核に関わる研究の流れを手短に振り返っておきたい。

この核は、服部四郎(1973: 28-29)が立てた3つのアクセント核——その仮の命名では東京方言の / ʌ / : 「高(低)核」(発音は / コ ー テー カク /)、アイヌ語沙流方言の / ɬ / : 「(低)高核」(/ テー コ ー カク /)、『類聚名義抄』の / ʌ / 「低(高)核」(/ テ ー コー カク /) ——を批判的に継承発展させ

る意図を持って、拙論（1975）で新たに / $\downarrow$ / 「（高）低核」（他と合わせるならば / コーテ ーカク /）として提案したものであった。

こうして設定した4つの核は、/ $\uparrow$ / と / $\downarrow$ / は線状的（順行的、 $\rightarrow$ ）な性質、/ $\uparrow$ / と / $\downarrow$ / は反線状的（逆行的、 $\leftarrow$ ）な性質を持ち、一方で、/ $\uparrow$ / と / $\downarrow$ / は「高低」の $\downarrow$ の方向性、/ $\downarrow$ / と / $\uparrow$ / は「低高」の $\uparrow$ の方向性を持つとした。一言でまとめると、線状性と方向性の点で対称的な4つの核を設けたのであった。そして、その立場で、現代諸方言のみならず、『類聚名義抄』や『四座講式』の新しいアクセント解釈も行なった。

しかしながら、その後、アクセント解釈は核のみでは無理で、式音調の再認識をしたこと、『四座講式』の / $\downarrow$ / 解釈は批判を受けて改めたこと、何よりも自らの岩手県雫石方言の / $\uparrow$ / を逆行的に規定することが話者としての直観に合わないことから、当初の考えはあまりにも図式的であったと反省して改めた。そして、言語は基本的に順行的に実現するものであることを前提に、とりわけ音声の規定なので順行的なものに変更した。

もとより言語は単純な線状性だけではなく、背後に文の構造がしっかりと存在しており、また、発話する単語のかなり先の単語まで頭の中では想起していてそれが当面の単語の発話に影響して言い間違い（混交を含む）を起こしたりすることもあるのは認めた上での話である。そのような「先取り」は、下げようとする働きとした「下げ核」の東京方言においても、同じ条件であれば核のある方が句頭の上昇がより高まる傾向があることにも現れる。その後に来る下降を頭に置いてその準備をするという、生理的にごく自然な現象で、本来の意味での逆行的なものではない。

規定の仕方の他にも、「核」の規定は動的なものであるべきで、静的な「高」や「低」を用いるのは相応しくないと考え、拙論（1989：202）では規定も名称も（11）のように変えた⁸。その上で、「降り核」の実例はまだ見つかっていない、としたのであった。

（11） / $\downarrow$ /：次を下げようとする「下げ核」（lowering kernel）【近年は記号は / $\downarrow$ / で入力】、

/ɾ/：そこで昇ろうとする「昇り核」(ascending kernel)【近年は記号は /ʌ/ で入力】、

/ʌ/：次を上げようとする「上げ核」(raising kernel)、

/ɿ/：そこで降ろうとする「降り核」(descending kernel)

以上がその経緯の概観であるが、しかし、その後も、確たる実例がなかった降り核については考えることもないまま時間が過ぎってしまった。中野方言にこの解釈の可能性を思いついたのは、コロナが取りまかして再度調査に出かける準備を始めた頃になってであった。そのため、話者には負担を掛けることになったが、その観点に立ってもう一度初めから調査をやり直すことになった。その結果、「降り核」を持つところまでは確定できたと考える。

しかし、残る一番の課題はその降り核の規定そのものである。私の中で変遷のあった、逆行的か順行的かの問題である。

この現象の解釈の分かれ目は、語頭核の振る舞いの位置付けにある。それ以外の位置の核は、その単語の中で高低変動が実現しており、その範囲内であれば線状性に沿った解釈をとる方が言語としてより自然だと考えられる以上、語頭核もそうだとすれば順行的な規定で決まることになる。しかし一方で、語頭核だけはその直前の有核文節の末尾モーラとの間で高低変動の関係が成り立ち、しかも、それ以外の核ではその直前の有核文節は低く終わっているという事実がある。これを見ると、語頭の降り核は直前の有核文節の末尾モーラを積極的に高くしているという逆行的解釈も可能となり、そうすると語頭核以外も逆行的に位置付けるのが統一の取れた見方となって、ここに対立する2つの立場があることになる。

しかしながら、逆行説への大きな疑問は、なぜ語頭核が前部の無核型には影響を与えないのか、という点にある。先に、無核型は形(かたち)性、すなわち語声調的性格を持つからと述べた(4.3節)。しかしこれは、影響を受けていない実態の説明として考えたものであって、語声調的性格は本質的に他からの影響を受けないものだということは意味しない。

例えば、広義の音調である質問・問い返しなどのイントネーションであれ

ば、形性をもつ無核型にも被さって不思議はない。実際、まだイントネーションの本格的調査はしていないものの、特に用言の例では、有核・無核を問わず、「こう発音すると聞く調子になる」「疑問だとこんな感じに言う」という例が話者の報告によく出てきている。

それを考えると、無核型＋語頭核型において、降り核が逆行的に作用すると見ると、無核型の末尾が高くなっていないのは不自然になってしまう。その逆に、前部の無核型が後部に影響を与えないのは自然である。

また一方で、前部の有核型は言い切り形においてその文節末で-[○]]という上昇・下降調を取るが、この文節末音調は核と結びついた現象だとする考えを述べた(4.2節)。

これらを合わせて考えると、有核型の文節末音調の末尾上昇(-L○(…)[○])は元々は言い切り・接続を問わず単語アクセントの反映として出てきていたものであって、降り核はそれを受けてそこから下がったものと見る順行的な規定の蓋然性が高くなる。それが、語頭核の直前以外は1モーラ分の高みは常にその単語内に存在するため前文節の文節末上昇は無用のものとなり、やがて消えてしまっただけで接続形としての表示機能を持つようになったのが現在の姿ではないか、と考えられる。そこにはある程度の時間が介在しているものの、降り核の規定そのものには変化がないものと見る。こう考えると、語頭核が前文節の末尾上昇のない無核型に影響を与えないのも自然なこととなる。これが現時点での見解である。

この考えのヒントになったのは次の事実である。核ではないものの、関西方言の低起式無核型、例えばスズ[メ、スズメ[ガ、スズメカ[ラ(雀)の振る舞いは、この後に高起式語の例えば[トブ(飛ぶ)が続くとスズメガ[トブと前文節は末尾まで低平調となり、低起式語の例えばト[ル(捕る)が続くとスズメカ[ラ]ト[ルと前文節の末尾だけが高くなる。これは、低く始まるトがその前文節の末尾を持ち上げているのではない。末尾が高い状態が低起式が続く環境で保持されたのに対し、高起式が続く環境では前文節末尾の高まりが後続文節の高さに吸収された結果である。(より詳しく言えば、*ス[ズメ、*ス[ズメガ、*ス[ズメカラの上昇が順次後退して、ついに後部高起文節

の前ではその後部に移った結果である。)

これと類似の変化が中野方言でも起こったのではないかと推測する。そう考えると、有核型は語頭核以外は2型 ([○]○[○(…)]) と同様にすべて高まりであった可能性が出てくる。4.1節の後半に述べた、3型の /オド_Lゴ/ (男) のオ[ド!ゴなどがしばしば[オド!ゴのように実現するの、その反映ではないかと考えられる。

さらには、4.4.1節の最後に取り上げたソ[ノ]シ.[タ、ソノシ.[タ!サ (その下に) も、無声化がどの段階で生じたものか等は未詳ながら、以前は例えば *[ソノシ.!タ、*[ソノシ.タ!サのように語頭から高く続いていたことが想定できる (シ。は発話頭よりも発話中の高い音の後の方が高く出やすい)。その後、シ。の後に2モーラ以上ある場合は高まりの後退が次末位まで順次 (ただし、ノの低下はシ。も相伴って) 生じたが、後に1モーラしかない環境では、無声化したシ。が低くなってタに高さが移る一方で、語頭の高まりの後退はシ。の前で止まってしまった可能性が考えられる。「下」は無核型であり、ソ[ノ]シ.[タは、前が高かった後でシ。自らが低くなっただけで、直前のノを高めたものでないことは疑いない。

このように見ると、中野方言の降り核は、前が高くなっているところに下がって続く順行的なもので、直前を上げる逆行的なものではないと考えられる。

以上、自らの考えの変遷の流れの中で順行的規定を取ることを述べた。しかしながら、今一つ簡潔で決定的な論拠に欠けるうらみは残る。中野方言アクセントの歴史的変遷も含め、なお調査と考察を進めたい。併せて、かつて前記の4つの核とともに提唱した「アクセント高核」/^/ (今なら上昇・下降核) と「アクセント低核」/∨/ のうちの「低核」(下降・上昇核) が、新田哲夫によって宮古八重山諸方言に適用されて進展しているが (例えば新田2023)、それとの関係も課題である。ただし、多良間方言における低核では、その降り核的な動きと上げ核的な動きは環境的変異で、共存することはない。また、新田はその下降は逆行的と見ている。

5. アクセント資料

稿末に「アクセント分布調査票 (A)」に基づく調査で得た700語ほどのリストを掲げる。調査項目の関連資料として得られたものも、紙幅との兼ね合いを見ながら、適宜加えた。

表記は、周辺他地域の資料と一緒にのファイルにしている関係で、本文のカナ表記とは異なるローマ字入力にしてある。注意すべき点は、j: ヤ行と拗音、ci、cu: チ、ツ、ng: ガ行鼻音（鼻濁音）、N: 撥音（語末の -n は実際に n で出た例）、。: 左の母音の無声化である。音調記号は既述。アクセントの音韻表記は // を略すが、_L: 降り核、= : 無核である。

見出し語の「夏（季節；人名）」などの（ ）内の「；」は意味の違いで分けたもので、それがアクセントに反映される場合は、[na: !zu ; na[zu]] のように対応する「；」で分けた。ただし、短文の用例、例えば「夜」の（と昼；～行く）などの「と」の例は、適宜「も」で代用して「+mo など」にまとめたものもあることを了解されたい。

関連情報は、x : 不使用、<x> : 言えばこう発音するが、まず使わない、<m> : 稀、<n> : 新、<o> : 古、<普> : 代わりに普段よく使う形、(OK) : これで可。

「核」の欄は、0 は無核、1、2 などは語頭からモーラ単位で数えた核の位置である。

6. 先行研究の大きな見落とし

草稿を一通り書いた段階で、念のために先行研究の見落としがないかと Google Scholar で検索をしたところ、他にもない、中野方言に「降り核」を設定した研究がすでにあることが分かった。児玉望（2018）である。

日本放送協会（1967）の談話音声进行分析して、中野方言は現存する降り核体系であると結論づけている（児玉は降り核を]L* と表記する）。そして、「連文節構造の後続文節の語頭核が先行文節の語末音節を高くする働きをもっていることは、上野（1975）の「（高）低核」、後の「降り核」のもつ「反線状

性」をよく示している。」(p. 45) とする。

アクセント史の仮説として「降り核化」を提唱していることは知っていたが、あくまでも独自の仮説であると見ていて、その後、中野方言が実在する降り核の例であると主張していたことを見落としていた。私の不明によるもので、逆行的規定ではあれ、その主張のプライオリティーは兎玉にある。

その上で、両論文の間には談話資料と対面調査による資料との性質の違いがあり、拙論には兎玉論文では触れられていない資料や現象も各種取り上げて述べているので、自らの責任で敢えて元のまま発表し、兎玉論文にはこのような形で言及するに留めることとした。

【参考文献】

- 上野善道 (1975) 「アクセント素の弁別的特徴」『言語の科学』 6 : 23-84.
- 上野善道 (1989) 「日本語のアクセント」、杉藤美代子編『講座日本語と日本語教育 2 日本語の音声・音韻 (上)』、明治書院 : 178-205.
- 上野善道 (1992) 「昇り核について」『音聲学協会会報』 199 : 1-13.
- 上野善道 (2019) 「岩手県田野畑村方言の用言のアクセント資料 (1)」『ことばとくらし』 32 : 7-29.
- 上野善道 (2021) 「岩手県田野畑村方言のアクセント調査報告——北奥方言アクセント祖体系との関連で——」『国立国語研究所論集』 20 : 115-147.
- 川上葵 (2000) 「日本語アクセントのトーン性」『音声研究』 4 (3) : 28-31.
- 兎玉望 (2018) 「東北地方の二つの方言の韻律分析——「アクセント核はどこから来たか」補説——」『ありあけ』(熊本大学言語学論集) 17 : 27-52.
- 柴田武 (1961=1988) 「ズーズー弁でない東北方言」『国語学研究』(東北大学) 1 : 1-6.
- 柴田武 (1967=1988) 「辺地・離島 (I) の方言の特徴」、日本放送協会 (1967) 所収.
- 柴田武 (1988) 『方言論』、平凡社。(柴田1967を「日本の言語島 (1) ——東北・関東」と改題の上、1961とともに再録。拙論における柴田1961、1967の引用は本書による。)
- 中野地区コミュニティ協議会 (2016a) 『中野のことば (併・古くからあった屋号と地名)』、70pp. (執筆編集 柳清水広作【「広作」と略記することも多い由】)
- 中野地区コミュニティ協議会 (2016a) CD 版『中野地区の昔のことば』.
- 新田哲夫 (2023) 「南琉球多良間方言アクセントの弁別特徴」『金沢大学歴史言語文化学系論集』 15 : 1-20.
- 日本放送協会 (1967) 『全国方言資料 第7巻 辺地・離島編 I ——東北・関東』、金田一春彦・

柴田武監修・校閲、CD-ROM 付き。

服部四郎 (1973) 「アクセント素とは何か? そしてその弁別の特徴とは? ——日本語の“高さアクセント”は単語アクセントの一種であって、“調素”の単なる連続にあらず——」『言語の科学』4: 1-61.

服部四郎 (1979=2018) 「日本祖語について (22)」『月刊言語』8 (12): 100-114.

服部四郎著・上野善道補注 (2018) 『日本祖語の再建』、岩波書店。(服部1979の引用は本書による。)

[付記] 話者の柳清水廣作氏の長時間に及ぶご教示に厚く御礼を申し上げる。氏の存在あってこその中野アクセント調査である。氏を紹介して下さった洋野町教育委員会、調査場所を提供して下さった種市図書館、その調査の切っ掛けを作って下さった大野眞男・竹田晃子両氏、並びに査読者にも謝意を表す。

本稿は JSPS 科学研究費19H00530 (代表者: 窪蘭晴夫) による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」(プロジェクトリーダー: 五十嵐陽介)、並びに「消滅危機言語の保存研究」(プロジェクトリーダー: 山田真寛) の研究成果も兼ねる。

注

- 1 『中野村誌』の出典注記はないが、CiNii によると、笠水上 軍次郎編纂、九戸郡中野村教育委員会、1955とある。ちなみに、柴田論文中の本書までの記憶はなくて現地で見物の閲覧もまだしていないが【補注】、ここにある「中野部落」の「部落」は「集落」の意味である。岩手県雫石町出身の筆者にとっても、buragu (=は無核型アクセント) はごく普通の言葉で、面と向かって出身集落名を聞くときにも使うし、公の場でもあった cjo:miNuN[do:kai (町民運動会、[は昇り核。なお、小学生の頃は cjo:meNuN[do:kai と言っていた。子供にとって「町民」 cjo:miN=は難しく、運動会で入賞すると「帳面」 cjo:meN=がもらえたからである。「ノート」[no:to という単語はまだなかった) では「レー」などの buraku.[taiko:(部落対抗) が行なわれ、「優勝、〇〇部落 (-bu[ragu)、2 位、△△部落」という放送がいつも流れていた。いわゆる「部落差別」の問題は大学に入ってはじめて知った。論文では意識して「集落」を使っているが、自分の本来の語彙ではない。
- 2 (3) の語例は、実は中野方言のものである。ただし、「鍋」は、話者は最初は確かに「ナーベ」と伸ばして発音した旨の印が付いているが、(恐らく最後に) これらの長母

音形をまとめて確認した際には、短く「ナベ」と答えたように調査表には書かれてある。とすれば、「鍋」は長母音形が出る琉球方言の代表例であるとの思い込みから、私の報告の手紙が間違っていた可能性が高い。服部（2018）の校訂・補注の際には、そこまで遡って確認することはしていなかった。

ちなみに、今回の話者も「ナーベ」は（（2）の中の「ホダール」とともに）使わないという。（2）の中の使用語彙のアクセントは、語頭長音形は / ナーツ = / 以外は / ○_Lー○ / であり、また / _Lコブ / である。（2）以外で得られた語頭長音形は次の通り： / ア_Lーブ（虻）、オ_Lーグ（奥）、セービ =（蟬）、ナ_Lーガ（中）、ニ_Lーラ（韭）、マ_Lーダ（まだ） /。なお、四季でも「冬」は非長音形の / フユ = / である。ただし、人名では「春、夏、秋、中、松」は短く、アクセントも / _L○○ / となる。

- 3 大野、竹田両氏からは、洋野町に行く前に宮古市で下閉伊郡田野畑村（たのはたむら）出身の牧原登氏の御紹介を受けて調査もできた。それ以来、牧原氏にはコロナ下でもオンラインによる調査を継続的にお願いしており、数本の報告論文を書いている（2019、2021等）。このことをここに書いたのは、このあと、および第3節に詳述するように、中野と田野畑の地域的な特性、および二人の話者の成育環境には、興味深い類似性が認められるからである。そして、牧原氏もまた出身地の方言集を出している。
- 4 この点でも、昭和20年の生まれながら、明治半ば生まれの両親、大正から昭和前期生まれの姉兄の中で育ち、江戸後期の古老の言葉も耳にしながら育ったという田野畑村出身の牧原登氏（拙論2021:115）と共通するところがあるのが興味を引く。

このお二人のケースは特別ではあろうが、私事になるものの、昭和21年生まれの手筆者も、小学生の中頃までは明治24年生まれ祖父と明治21年生まれ祖母と同じ部屋で、祖父と同じ布団の中で senagaa[wase（背中合わせ）]をして寝て、方言の mugasu.kko =（昔っこ、昔話）を聞きながら眠る毎日であった。

特にそういう調査をしたことはないが、家庭により、また職業などによりそれなりの違いはあったにしても、少なくとも戦後しばらくの間までは、そのような方言生活の中で古い言葉がそれなりに伝承されるのが普通だったのではないと思われる。

- 5 このことは、山梨県奈良田方言のアクセント調査を思い起こさせる。奈良田の話者は、いずれも切り替え一つで「上げ核」の奈良田アクセントとそれと対称的な関係にある周辺地域の「下げ核」のアクセント（≡東京アクセント）を巧に使い分けていて、両方言に存在する型の場合は、それだけを言われると、どちらの方言のアクセントのつもりかを逐一確認する必要があった。
- 6 分布調査票（A）は約40年使い続けているもので、1～4モーラ体言と2～4モーラ用言からなり、全項目の単独形の他に、3モーラ語までの代表語例には、体言にはト・ノ・モ・カラ・マデ・デモの助詞付き形（カラモなどの組み合わせや無助詞相当も含

む)とその短文例、用言は代表的な活用形も含む。外来語の方は2010年頃に改めて作ったもので、2～9モーラ体言からなる。なお、「調査票」か「調査表」かは、使い分けを意図したものではない。

- 7 ここに「エァ」とカナ表記した音は、-ai、-ae が融合したときに現れるもので、「エー」とは区別される。長母音の æ: というよりはエからアに動いていくもので、稿末資料では(近隣方言もローマ字入力をしている関係で) ea とし、na[me!a (名前)、ta[rea]] (鹽) などとしてある。(C)ea で2モーラの重音節を形成する。なお、話者作成の方言集である中野地区コミュニティ協議会(2016a)でも、例えば「えあま・えあまこ〔合間・隙間〕」としてあり、カナ表記もそれに合わせた。
- 8 名称は、/ɾ/に相当するものは、かつては「下り核」とも書かれ、人により「さがり核」「くだり核」と読み方が違っていた(「おり核」とも読める)。/ɾ/も一定せず、表記が割れていて、その一つ「上り核」もさらに「のぼり核、あがり核」両用に読まれる状況であった。それらを解消すべく、他動詞と自動詞を、さらには漢字も使い分けて現在の4つの名称にしたものである。「降り核」だけは「おり核」と読まれる恐れは残るが、他の表記は思い当たらず、他の3つとの関係から「くだり核」と読んでもらえろと考えた。この辺の経緯は拙論(1992: 9-12)を参照。

【補注】2023年12月に種市図書館で閲覧し、その後、話者の柳清水氏から寄贈を受けた。参考までにその該当箇所を原文のまま引用しておく。「第四編 民俗風習 B 言語文化一、方言」の冒頭部である(p. 191)。「中野村の方言は、中野、有家、小子内の各部落間に著しい相異は見受けられないが、ただ、言葉のアクセントには、部落間に可成りの違いがあることが認められる。特に中野部落のアクセントは、有家、小子内両部落のそれが比較的類似しているのに対し、一種独得なものをもっているように思われ中野のみが、上方訛だといわれている。そこで、こゝにはアクセントも附し、その特異性を示してみることにした。アクセントは中野のものをあらわし、かつこ内のことは特に、小子内、有家で使うものである。」続く語例のアクセントは高い所を傍線で示し、「これは主として会話中におけるものである。」とする。担当者は、木村慶一、笠水上 譲、佐々木久雄(作家の三好京三、県内旧前沢町出身)の3名。本書が中野方言アクセントを記載した最初の文献となる。

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
11 柄	[[je	[je!mo	je=	0
11 蚊	<m>[[ka, <普>jo[nga]] (夜蚊)	[ka!mo, jonga[mo]]	<m>ka=, <普>ɿjonga	0,1
11 子	[[ko	[ko!mo	ko=	0
11 血	[[ci	[ci!mo	ci=	0
11 戸	[[to	[to!mo	to=	0
11 帆	[[ho	ho[mo]]	ɿho	1
12 鶇(う)	<x>[[u (言うとすれば)	u[mo]]	<x>ɿu	1
12 名	[[na	[na!mo	na=	0
12 葉	[[ha	[ha!mo	ha=	0
12 日(が出る; が変わる; あの日から)	[[si; a!no!si,(あの日) anosɿ[ga!ra, anosɿ _o [ka!ra	[si!mo; ano!si!mo, anosiga[ra!mo, -si _o ka[ra!mo	si=; anosɿ=, anosigara=, -si _o kara	0; 0, 0
12 藻(も)	x. まとめて [ko!ge (苔). Cf. [[me (昆布類)	[ko!ge[mo]], [me!mo	ko!ge (苔). Cf. me= (昆布類)	2 0
12 矢	[[ja	[ja!mo	ja=	0
13 絵	[[e	e[mo]]	ɿe	1
13 木	[[ki	ki[mo]]	ɿki	1
13 酢	[[su	su[mo]]	ɿsu	1
13 田	[[ta	ta[mo]]	ɿta	1
13 手	[[te	te[mo]]	ɿte	1
13 根	[[ne	ne[mo]]	ɿne	1
13 火	[[si	si[mo]]	ɿsi	1
13 屁(へ)	[[he	he[mo]]	ɿhe	1
13 穂	[[ho	ho[mo]]	ɿho	1
13 目	[[me, <普>[ma]na[gu]], meN[ta!ma (目ん玉)	me[mo]], [ma]nagu[mo], meN[ta]ma[mo]]	ɿme, <普>ma!nagu, meNta!ma (目ん玉)	1, 2, 4
13 湯(と水; 風呂)[お-]	[[ju, [o!ju	ju[mo]], [o!ju[mo]]	ɿju, oɿju	1, 2
13 夜(よ)(が明ける)	[[jo	jo[mo]]	ɿjo	1
13 輪	[[wa, [wak!ka	wa[mo]], [wak]ka[mo]]	ɿwa, wak!ka	1, 3
1x 毛	[[ke	[ke!mo	ke=	0
1x 巢	[[su	su[mo]]	ɿsu	1
1x 背(が高い)	[se!:	[se:]!mo]]	se!:	2
1x 齒	[[ha	ha[mo]]	ɿha	1
1x 刃	[[ha	ha[mo]]	ɿha	1
1z 胃	[[i	[i!mo	i=	0
1z 蛾(が)	[te]ngara[ko]]	[te]ngarako[mo]]	te!ngarako	2
1z 氣(が狂う)	[[ki	[ki!mo	ki=	0
1z 九(く)	[[ku	ku[mo]]	ɿku	1
1z 苦(にする)	[[ku, ku: [su!ru.(苦をする)	ku[mo]]	ɿku	1
1z 五	[[go	go[mo]]	ɿgo	1
1z 碁(ご)	[[go	go[mo]]	ɿgo	1
1z 四(し)	[[si	si[mo]]	ɿsi	1
1z 詩	[[si	[si!mo	si=	0
1z 字	[[zi	zi[mo]]	ɿzi	1
1z 痔(じ)(が痛い)	[[zi	[zi!mo	zi=	0
1z 地(じ)(が出る)	<m>[[zi, <普>[[ga (我)	zi[mo]], ga[mo]]	<m>ɿzi, <普>ɿga (我)	1, 1
1z 茶(色; お茶)	[[cja, [cjai!ro; [[cja, [o!zja	[cja!mo, cjai!ro!mo; [cja!mo, o!zja!mo	cja=, cjairo=; cja=, o!zja=	0, 0; 0, 0
1z 出(が悪い)	[[de, dea [wa`ri:]].	de[mo]]	ɿde, (wa!ri:)	1
1z 二	[[ni	ni[mo]]	ɿni	1
1z 分(ぶ)(が良い)	[[bu	[bu!mo	bu=	0
1z 間(が抜ける)	[[ma, [ma]: nu!ge!ru.	[ma!mo	ma=	0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
1z 実	[[mi, nasi[no!mi (梨の実), kagi[no!mi (柿の実)	[mi!mo, nasino[mi!mo, kagino[mi!mo	mi=, nasinomi=, kaginomi=	0,0 0
1z 身 (に付ける)	<m>[[mi	[mi!mo	<m>mi=	0
21 飴	[a!me	a[me!mo	ame=	0
21 鳥賊 (いか)	[i!ga (OK)	i[ga!mo	iga=	0
21 牛	[be!go	be[go!mo	bego=	0
21 梅	[u!me	u[me!mo	ume=	0
21 枝	[e!da	e[da!mo	eda=	0
21 海老 (えび)	[e!bi	e[bi!mo	ebi=	0
21 柿	[ka!gi	ka[gi!mo	kagi=	0
21 風	[ka!ze	ka[ze!mo	kaze=	0
21 蟹 (かに)	[ga!ngi (OK), <m>[ga!ni	ga[ngi!mo, ga[ni!mo	gangi=, <m>gani=	0
21 金 (かね)(金属; 銭)	[ka!ne; zje[ne]] (OK)	ka[ne!mo; zjene[mo]]	kane=; zjene	0;1
21 壁	[ka!be	ka[be!mo	kabe=	0
21 雉 (きじ)	[ki!zi	ki[zi!mo	kizi=	0
21 傷	[ki!zu	ki[zu!mo	kizu=	0
21 桐	[ki!ri	ki[ri!mo	kiri=	0
21 釘	[ku!ngi	ku[ngi!mo	kungi=	0
21 口	[ku!zi	ku[zi!mo	kuzi=	0
21 首	[ku!bi, <普>kupi _o [ta!;, [kupi _o !ko (首っこ)	ku[bi!mo, kupi _o [ta!:!mo, kupi _o [ko!mo	kubi=, <普>kupi _o ta:=, kupi _o ko=	0,0, 0
21 腰	[ko!si	ko[silmo	kosi=	0
21 胡麻 (ごま)	[go!ma	go[ma!mo	goma=	0
21 これ	[ko!re	ko[re!mo	kore=	0
21 酒	[sa!ge	sa[ge!mo	sage=	0
21 皿	[sa!ra	sa[ra!mo	sara=	0
21 皺 (しわ)	[si!wa	[si]wa[mo]] (OK)	si.wa	2
21 杉 (植; 名前)	[su!ngi; su[ngi]]	su[ngi!mo; sungi[mo]]	sungi=; ısungi	0;1
21 底	[so!go	so[go!mo	sogo=	0
21 袖	[so!de	so[de!mo	sode=	0
21 滝 (水 of; 名前)	[ta!gi; ta[gi]]	ta[gi!mo; tagi[mo]]	tagi=; ıtagi	0;1
21 竹 (植; 名前)	[ta!ge; ta[ge]]	ta[ge!mo; tage[mo]]	tage=; ıtage	0;1
21 棚	[ta!na	ta[na!mo	tana=	0
21 誰	da[re]], [[da:]], [da:] ki _o [te]a (誰が来た?)	darega[ra]], daNga[ra]], <m>da:ga[ra]] (種市方言が主) (誰から), dare[dea]], daN[dea]] (誰だ); da[re!mo, da[re]mo e[ne!a. (誰もいない), [daN!mo, <m>[da:!mo. (否定で)	ıdare, da:da:, daremo=, daNmo=, <m>da:mo=, (否定で)	1, 1, 0
21 爪	[cu!me	cu[me!mo	cume=	0
21 どこ	do[go]]. dokko は mo が必須 で, 単独や sa(に), gara(から)が 付いた形だけでは不自然らしい. dokkoga[ra!mo なら可.	dogo[sa]] (～に), dogoga[ra]] ; do[go!mo, dok[ko!mo (～同じ). dogo[sa!mo (～にも), dokko[sa!mo	ıdogo; dogomo=, dokkomo=, dogosamo=, dokkosamo=	1; 0, 0 0
21 鳥	[to!ri	to[ri!mo	tori=	0
21 西 (方角; 人名)	[ni!si; ni[si]]	ni[si!mo; nisi[mo]]	nisi=; ınisi	0;1
21 蠅	[he!a	[he!mo	hea=	0
21 箱	[ha!go	ha[go!mo	hago=	0
21 蜂	[ba!zi (OK)	ba[zi!mo	bazi=	0
21 鼻	[ha!na	ha[na!mo	hana=	0
21 羽根	[ha!ne	ha[ne!mo	hane=	0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
21 髭 (ひげ) [髭]	[hu!nge (OK), <n>[si!nge	hu[nge!mo, si[nge!mo	hunge=, <n>singe=	0,0
21 暇	[si!ma	si[ma!mo	sima=	0
21 笛	[hu!e	hu[e!mo	hue=	0
21 蓋 (ふた)	hu. _o [ta (OK)	hu. _o [ta!mo	hu. _o ta=	0
21 筆	[hu!de	hu[de!mo	hude=	0
21 星 (空の; 人名)	[ho!si; ho[si]]	ho[si!mo; hosi[mo]]	hosi=; _h osi	0;1
21 真似 (まね)	[ma!ne	ma[ne!mo	mane=	0
21 右 (と左; の通り)	[mi!ngi	mi[ngi!mo, mi[ngi]no to:[ri]]	mingi=	0, 0
21 水	[mi!zu	mi[zu!mo	mizu=	0
21 道	[mi!zi	mi[zi!mo	mizi=	0
21 虫	[mu!si	mu[si!mo	musi=	0
21 桃	[mo!mo	mo[mo!mo	momo=	0
21 百合 (ゆり) (植; 人名)	[ju!ri; ju[ri]]	ju[ri!mo; juri[mo]]	juri=; _j juri	0;1
21 横	[jo!go	jo[go!mo	jogo=	0
21 嫁	[jo!me	jo[me!mo	jome=	0
22 痣 (あざ)	[a!za	a[za!mo	aza=	0
22 鯔 (あじ)	<o>[a!ze (OK), [a!zi	[a]ze[mo]], [a]zi[mo]]	<o>a _z e, a _z i	2
22 あれ	[a!re	a[re!mo	are=	0
22 栗毬 (いが)	ku[ri]kac[ca]] (栗殻)	ku[ri]kacca[mo]]	ku _{ri} kacca	3
22 石	[i!si	i[si!mo	isi=	0
22 岩	[ju!wa (OK)	ju[wa!mo	juwa=	0
22 歌	[u!da	u[da!mo	uda=	0
22 音	[o!do	o[do!mo	odo=	0
22 垣 (かき)	[ka!gi, ka[gi!ne	ka[gi!mo, kagi[ne!mo	kagi=, kagine=	0,0
22 型	[ka!da	ka[da!mo	kada=	0
22 紙	[ka!mi	ka[mi!mo	kami=	0
22 殻 (から)	[ka!ra, mame[ka!ra (豆殻)	kara!mo, mameka[ra!mo (OK)	kara=, mamekara=	0,0
22 川	[ka!:	[ka!mo	ka:=	0
22 北	ki. _o [ta (OK)	ki. _o [ta!mo	ki. _o ta=	0
22 牙 (きば)	[ki!ba	ki[ba!mo	kiba=	0
22 杭 (くい)	[ku!i	[kui!mo	kui=	0
22 串	[ku!si	[ku]si[mo]] (OK)	ku _l si	2
22 鞍 (くら)	[ku!ra	ku[ra!mo	kura=	0
22 下 (しも)	<m>[si!mo, <普>si. _o [ta (OK)	si[mo!mo, si. _o [ta!mo	<m>simo=, <普>si. _o ta=	0, 0
22 蟬 (せみ)	[se!bi (OK)	se:[bi!mo	se:bi=	0
22 旅	[ta!bi	ta[bi!mo	tabi=	0
22 為 (になる)	[ta!me	ta[me!mo	tame=	0
22 次	[cu!ngi	[cu]ngi[mo]]	cu _l ngi	2
22 弦 (つる) (弓の)	[cu!ru	cu[ru!mo	curu=	0
22 梨	[na!si	na[si!mo	nasi=	0
22 夏 (季節; 人名)	[na!zu; na[zu]]	na:[zu!mo; nazu[mo]]	na:zu=; _l nazu	0;1
22 虹	[ni!zi (<x>nozi)	ni[zi!mo (OK)	nizi=	0
22 橋	[ha!si	ha[si!mo	hasi=	0
22 旗	[ha!da	ha[da!mo	hada=	0
22 機 (はた)	<m>[ha!da (あったか?)	ha[da!mo	<m>hada=	0
22 肘 (ひじ)	[hi!zi	hi[zi!mo	hizi=	0
22 人 (が来た; あの〜が来た)	hu. _o [to, hu. _o [to]a ki. _o [ta]]. a[no]hu. _o [to, <n>a[no]si. _o [to	hu. _o [to!mo; anohu. _o [to!mo, anohu[to]a ki. _o [ta]]. [a]no hu. _o [to!mo	hu. _o to=; anohu, to=, anosi. _o to=, ano= hu. _o to=	0, 0, 0+0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
22 昼	[si!ru, <普>si!ru!ma (昼間), <普>[siN!ma	si!ru!mo, siru!ma!mo, siN!ma!mo	siru=, <普>siruma=, <普>siNma=	0, 0, 0
22 冬 (季節; 人名)	[hu!ju; hu[ju]]	hu[ju!mo; huju!mo]]	huju=; !huju	0;1
22 町	[ma!zi	ma!zi!mo	mazi=	0
22 胸	[mu!ne	mu!ne!mo	mune=	0
22 村	[mu!ra	mu!ra!mo (OK)	mura=	0
22 雪 (冬の; 人名)	[ju!gi; ju!gi]]	ju!gi!mo; jugi!mo]]	jugi=; !jugi	0;1
22 余所 (よそ)	[jo!so	[jo]so!mo]]	jo!so	2
22 技 [業]	[wa!za	[wa]za!mo]]	wa!za	2
23 垢 (あか)	[a!ga	[a]ga!mo]]	a!ga	2
23 足	[a!si	[a]si!mo]]	a!si	2
23 穴	[a!na	[a]na!mo]]	a!na	2
23 網 (あみ)	[a!mi	[a]mi!mo]]	a!mi	2
23 池	[e!ge	[e]ge!mo]]	e!ge	2
23 犬	[e!nu	[e]nu!mo]]	e!nu	2
23 芋	[e!mo	[e]mo!mo]]	e!mo	2
23 色	[e!ro	[e]ro!mo]]	e!ro	2
23 腕	[u!de	[u]de!mo]]	u!de	2
23 馬	[o!ma (OK)	[o]ma!mo]]	o!ma	2
23 膿 (うみ)	[u!mi	[u]mi!mo]]	u!mi	2
23 裏	[u!ra	[u]ra!mo]]	u!ra	2
23 鬼	[o!ni	[o]ni!mo]]	o!ni	2
23 親	[o!ja	[o]ja!mo]]	o!ja	2
23 貝	[keat!ko, kea!ka!ra (貝殻)	[keaj!ko!mo]], kea!ka!ra!mo]]	keaj!ko, keaj!ka!ra	3, 4
23 鍵	[ka!ngi, cu!pa!ri (鍵開き)]	[ka]ngi!mo]], cu!pa!ri!mo]]	ka!ngi, cu!pa!ri	2,3
23 髪	[ka!mi, [ka]mi!ke]] (髪毛)	[ka]mi!mo]], [ka]mike!mo]]	ka!mi, ka!mike	2,2
23 瓶 (かめ)	[ka!me	[ka]me!mo]]	ka!me	2
23 皮 [革]	[ka!wa (OK)	[ka]wa!mo]]	ka!wa	2
23 茎	[ku!gi	[ku]gi!mo]]	ku!gi	2
23 草	ku!sa (OK)	ku!sa!mo]] (OK)	ku!sa	2
23 櫛 (くし)	[ku!si	[ku]si!mo]]	ku!si	2
23 靴	[ku!zu	[ku]zu!mo]]	ku!zu	2
23 熊	[ku!ma	[ku]ma!mo]]	ku!ma	2
23 雲	[ku!mo	[ku]mo!mo]]	ku!mo	2
23 栗 (くり)	[ku!ri	[ku]ri!mo]]	ku!ri	2
23 米	[ko!me → 「もち米」 参照	[ko]me!mo]]	ko!me	2
23 坂	[sa!ga	[sa]ga!mo]]	sa!ga	2
23 塩	[[sjo, [sjo~ni:]] (塩煮). ただし, sio!ka!ra (塩辛)	sjo!mo]], [sjo]ni:!mo]]. sio!ka!ra!mo]]	!sjo, sjoni:. sioka!ra	1,2. 4
23 舌	si!ta [ta (OK) (<x>be!ro]]	si!ta!mo]] (OK)	si!ta	2
23 島 (海の; 人名)	[si!ma; si!ma]]	[si]ma!mo]]; sima!mo]]	si!ma; !sima	2;1
23 墨	[su!mi	[su]mi!mo]]	su!mi	2
23 谷 (山と～; 人名)	<m>[ta!ni, <普>[sa! (沢), doc!ca:]] (深谷, ど沢); ta!ni]] (人名)	ta!ni!mo, [sa!mo]] (まるでのサモ と同形), docca!mo]]; tani!mo]]	<m>tani=, <普>sa!: (沢), !docca:; !tani	0, 2,1; 1
23 玉 ([球]; 猫の名)	[ta!ma; ta!ma]]	[ta]ma!mo]]; tama!mo]]	ta!ma; !tama	2;1
23 月	[cu!gi	[cu]gi!mo]]	cu!gi	2
23 網	[cu!na	[cu]na!mo]]	cu!na	2
23 角 (つの)	[cu!no	[cu]no!mo]]	cu!no	2
23 毒	[do!gu	[do]gu!mo]] (OK)	do!gu	2

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
23 年 [歳]	[to!si]	[to!si[mo]]	to:si	2
23 波	[na!mi]	[na]mi[mo]]	na:mi	2
23 蚤 (のみ)	[no!mi]	[no]mi[mo]]	no:mi	2
23 海苔 (のり)	[no!ri]	[no]ri[mo]]	no:ri	2
23 恥	[ha!zi]	[ha]zi[mo]]	ha:zi	2
23 鉢	[ha!zi]	[ha]zi[mo]]	ha:zi	2
23 花 (植; 人名)	[ha!na; ha!na]]	[ha]na[mo]]; hana[mo]]	ha:na; ha:na	2;1
23 腹	[ha!ra]	[ha]ra[mo]]	ha:ra	2
23 孫	ma[ngo]] (OK)	mango[mo]]	ɽmango	1
23 豆	[ma!me]	[ma]me[mo]]	ma:me	2
23 店	[mi!se]	[mi]se[mo]]	mi:se	2
23 耳	[mi!mi]	[mi]mi[mo]]	mi:mi	2
23 姪 (めい)	[me!;]	[me]:[mo]]	me:;	2,
	[me:!ko]	[me:ko[mo]] (OK)	me:ko	3
23 山	[ja!ma]	[ja]ma[mo]]	ja:ma	2
23 指	[ju!bi]	[ju]bi[mo]]	ju:bi	2
23 夢	[ju!me]	[ju]me[mo]]	ju:me	2
23 綿 (わた)	[wa!da]	[wa]da[mo]]	wa:da	2
23 鰐 (わに)	[wa!ni]	wa[ni!mo (OK)	wani=	0
24 跡 [後]	a[do]]	ado[mo]]	ɽado	1
24 息	i[gi]] (OK)	igi[mo]]	ɽigi	1
24 板	e[da]]	eda[mo]]	ɽeda	1
24 いつ (が良い?;	i[zu]], izu[a] je:[ga]] (が良い?),	izu[mo]], ic[cu!mo (いつも),	ɽizu, iccumo=,	1,0
～来た?)	i[zu] ki.[te]a (～来た?).	iccu[mo] kaccu[mo]] (～かつも),	ɽiccumo ɽkaccumo.	1+1
	Cf. <m>ic[cutni (とくに)	izuga[ra]] (～から)	Cf. <m>iccuni=	0
24 糸	e[do]],	edo[mo]],	ɽedo,	1,
	<o>[kaN!na	[kaN]na[mo]]	<o>kaN:na	3
24 稲	<m>[e!ne,	[e]ne[mo]],	<m>e:ne,	2,
	<普>[ko!me (米),	[ko]me[mo]],	<普>ko:me,	2,
	kome[ga!ri (米刈り=稲刈り)	kome[ga]ri[mo]]	komega:ri	4
24 白 (うす)	u[su]]	usu[mo]]	ɽusu	1
24 海	<m>u[mi]],	umi[mo]],	<m>ɽumi,	1,
	<普>[ha!ma (浜)	[ha]ma[mo]]	<普>ha:ma	2
24 帯	o[bi]]	obi[mo]]	ɽobi	1
24 傘 [笠]	ka[sā]]	kasa[mo]]	ɽkasa	1
24 数	ka[zu]], 強調で[ka]:[zu]]も.	kazu[mo]], [ka]:zu[mo]]	ɽkazu, ka:zu (強調)	1,2
24 肩	ka[da]]	kada[mo]]	ɽkada	1
24 角 (かど)	ka[do]]	kado[mo]]	ɽkado	1
24 鎌	ka[ma]]	kama[mo]]	ɽkama	1
24 杵 (きね)	ki[ne]],	kine[mo]],	ɽkine,	1,
	<o>ki[ngi]]	kingi[mo]]	<o>kingi	1
24 今日 (～は; ～来た)	[[kjo:]], [kjo: ki.[ta (～来た)	kjo:[mo]]	ɽkjo:	1
24 錐 (きり)	ki[ri]],	kiri[mo]],	ɽkiri,	1,
	momo[ngi!ri (揉み錐)(OK)	momongi[ri!mo	momongi:ri=	0
24 屑 (くず)	ku[zu]],	kuzu[mo]],	ɽkuzu,	1
	nogo[ku!zu (ノコ屑)	nogoku[zu!mo (OK)	nogokuzu=	0
24 管 (くだ)	<m>ku[da]] (最初 [ku!da)	kuda[mo]] ([kuda[mo]])	<m>ɽkuda	1
24 今朝 (けさ)	ke[sā]]	kesa[mo]]	ɽkesa	1
24 桁 (位; 家の)	ke[da]]	keda[mo]]	ɽkeda	1
24 下駄 (げた)	ge[da]]	geda[mo]]	ɽgeda	1
24 鞘 (さや)[英(豆の)]	sa[jā]]	saja[mo]]	ɽsaja	1
24 汁	si[ru]]	siru[mo]]	ɽsiru	1

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
24 筋 (すじ)	su[zu]] (OK)	suzu[mo]]	ɽsuzu	1
24 隅	su[mi]]	sumi[mo]]	ɽsumi	1
24 銭 (ぜに)	zje[ne]] (OK)	zjene[mo]]	ɽzjene	1
24 外 (そと)	[so!do (OK)	[so]do[mo]]	so!do	2
24 側 (そば)	so[ba]]	soba[mo]]	ɽsoba	1
24 空 (そら)	so[ra]]	sora[mo]]	ɽsora	1
24 種	ta[ne]]	tane[mo]]	ɽtane	1
24 杖 (つえ)	cu[e]]	cue[mo]]	ɽcue	1
24 粒	cu[bu]]	cubu[mo]]	ɽcubu	1
24 苗 (を植える; 人名)	[[nea]]; na[e]] (OK) [nea]do[go]] (苗床)	nea[mo]]; nae[mo]] [nea]dого[mo]]	ɽnea; ɽnae nea!dого	1;1 3
24 中 (に; 人名)	[na]:[ga]]; na[ga]] (屋号も)	[na]:ga[mo]]; naga[mo]]	naɽ:ga; ɽnaga	2;1
24 何 (が良い; も無い)	na[ni]], naN[nja]/nani[a] je:[ba]] (何が良いか)	naniga[ra]], naNga[ra]], nanigara[mo]], naNgara[mo]]; [naN]mo [nea]], na[ni!mo]も. naN[ga]kaN[ga]] (何かにか)	ɽnani; naNmo=, nanimo=, ɽnaNga ɽkaNga	1; 0, 1+1
24 鑿 (のみ)	no[mi]]	nomi[mo]]	ɽnomi	1
24 箸	ha[sil]]	hasi[mo]]	ɽhasi	1
24 肌	ha[da]]	hada[mo]]	ɽhada	1
24 針	[ha]:[ri]]	[ha]:ri[mo]]	haɽ:ri	2
24 舟	hu[ne]]	hune[mo]]	ɽhune	1
24 紅 (べに)	be[ni]]	beni[mo]]	ɽbeni	1
24 篋 (へら)(裁縫)	he[ra]]	hera[mo]]	ɽhera	1
24 他 (ほか)	ho[ga]]	hoga[mo]]	ɽhoga	1
24 松 (木; 人名)	[ma]:[zu]]; ma[zu]]	[ma]:zu[mo]]; mazu[mo]]	maɽ:zu; ɽmazu	2;1
24 味噌	me[so]] (OK)	meso[mo]]	ɽmeso	1
24 蕨 (みの)	mi[no]]	mino[mo]]	ɽmino	1
24 麦	mu[ngi]]	mungi[mo]]	ɽmungi	1
24 宿	ja[do]]	jado[mo]]	ɽjado	1
24 畏 (わな)	wa[na]], waN[na]]	wana[mo]], waNna[mo]]	ɽwana, ɽwaNna	1
24 蕨 (わら)	wa[ra]], [mu]ngika[ra]] (麦蕨)(OK)	wara[mo]], [mu]ngikara[mo]]	ɽwara, muɽngikara	1, 2
25 藍 (あい)	<m> a[o]] (青)か?	ao[mo]]	<m>ɽao か	1
25 青 (色; 馬)	a[o]] (馬も)	ao[mo]]	ɽao	1
25 赤 (色; 犬)	a[ga]] (色; 犬よりむしろ赤ん坊 を言う), aga[e!nu (赤犬)も	aga[mo]], aga[e!nu!mo	ɽaga, agaenu=	1, 0
25 秋 (季節; 人名)	[a]:[gi]]; a[gi]]	[a]:gi[mo]]; agi[mo]]	aɽ:gi; ɽagi	2;1
25 朝 (と晩; ~着く)	a[sal!ma (朝間); a[sal!ma cu[gu]].	a[sal!ma[mo]]	asa!ma; asama=	3; 0
25 汗	a[se]]	ase[mo]]	ɽase	1
25 兄	a[ni]]	ani[mo]]	ɽani	1
25 蛇 (あぶ)	[a]:[bu]]	[a]:bu[mo]]	aɽ:bu	2
25 雨	a[me]]	ame[mo]]	ɽame	1
25 鮎 (あゆ)	a[ju]]	aju[mo]]	ɽaju	1
25 井戸	e[do]] (糸と同音)	edo[mo]]	ɽedo	1
25 桶	o[ge]]	oge[mo]]	ɽoge	1
25 牡蠣 (かき)	<m>[ka!gi (柿と同音. 採れず)	ka[gi!mo	<m>ɽkagi=	0
25 蔭 [影]	ka[nge]]	kange[mo]]	ɽkange	1
25 蜘蛛 (くも)	ko[bu]] (OK)	kobu[mo]]	ɽkobu	1
25 黒 (色; 犬)	ku[ro]], kuro[e!nu (黒犬)も	kuro[mo]], kuro[e!nu[mo]]	ɽkuro, kuroeɽnu	1, 4
25 鯉	ko[e]] (=声)	koe[mo]]	ɽkoe	1

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
25 声	ko[e]]	koe[mo]]	ɿkoe	1
25 琴 (楽器; 人名)[お-]	<m>[ko!do (最初ko[do])]. 女性 はko[do!ko, o[ko!to とも. 女性名は kodo[ko]], ko[do]]	[ko]do[mo]] (同 kodo[mo])), ko[do]ko[mo]], o[ko]to[mo]]. kodoko[mo]], kodo[mo]]	<m>koldo, kodo.ko, oko.to; (人名) ɿkodo(ko)	2, 3,3; 1
25 蛙	sa[ge]]	sage[mo]]	ɿsage	1
25 猿	<m>sa[ru]] (いない)	saru[mo]]	<m>ɿsaru	1
25 白 (色; 犬)	si[ro]], siro[e]nu (白犬)も	siro[mo]], siro[e]nu[mo]]	ɿsiro, siroe.nu	1, 4
25 縦	ta[de]]	tade[mo]]	ɿtade	1
25 足袋 (たび)	[ta]:[bi]]	[ta]:bi[mo]]	ta:bi	2
25 常 (に)	cu[ne]]	cune[ni]] (に)	ɿcune	1
25 露	[cu]ju (OK)	[cu]ju[mo]]	cu:ju	2
25 鶴 (鳥; 人名)	cu[ru]] (人名も同じ)	curu[mo]]	ɿcuru	1
25 鍋	na[be]] (OK)	nabe[mo]]	ɿnabe	1
25 鱧 (はも)	ha[mo]]	hamo[mo]]	ɿhamo	1
25 春 (季節; 人名)	[ha]:[ru]; ha[ru]]	[ha]:ru[mo]; haru[mo]]	ha:ru; ɿharu	2;1
25 蛭 (ひる)	<m>si[ru]] (方言あったか?)	siru[mo]]	<m>ɿsiru	1
25 蛎 (ふな)	hu[na]]	huna[mo]]	ɿhuna	1
25 蛇	[he]:[bi]]	[he]:bi[mo]]	he:bi	2
25 前 (と後; 以前)	[[mea]]	mea[mo]], [mea]meaka[ra]] (前々から)	ɿmea, mea.meakara (-k-で可)	1 3
25 窓	ma[do]]	mado[mo]]	ɿmado	1
25 繭 (まゆ)	x. Cf. [to:]do[go]] (蚕)	x. [to:]dogo[mo]]	x. Cf. to:ɿdogo (蚕)	3
25 婿 (むこ)	mu[go]] (OK)	mugo[mo]]	ɿmugo	1
25 腿 (もも)	momo[ta]] (OK)	momota[mo]]	ɿmomota	1
2x 今 (は; に; ~来た)	e[ma]; e[ma] ki. [ta]].	ema[mo]]	ɿema	1
2x 上 (に; その~に)	[[we (子音は唇歯音のu). wegea[do:] (上街道); so[no]we, [so]no[[we	[we]mo. wegea[do]:[mo]]; sono[we]sa, [so]no[we]sa (~に)	we=, wegeado: (上街道); sonowe=, sono= we=	0. 5; 0,0+0
2x 内 (と外; 家; その~ に)	[na]:[ga]] (中); [i]e (家); sono[u]zi, [so]no[u]zi	[na]:ga[mo]; [i]e[mo]] sonou[zi]N, [so]nou[zi]N (に)	na:ga; i.e; sonouzi=, sono= uzi=	2;2; 0,0+0
2x 沖	[o]gi	[o]gi[mo]]	o:gi	2
2x 奥	[o]:[gu]]	[o]:gu[mo]]	o:gu	2
2x 亀	[ka]me	[ka]me[mo]]	ka:me	2
2x 鴨 (かも)	ka[mo]]	kamo[mo]]	ɿkamo	1
2x ここ	ko[go]]	kogo[mo]]	ɿkogo	1
2x 下 (に; その~に)	si. [ta(OK); so[no]si. [ta, [so]nosia [ta	si[ta]mo; sonosia [ta]sa, [so]no si. [ta]sa (その~に)	si. ta=; sonosia. ta=, sono= si. ta=	0;0, 0+0
2x そこ	so[go]]	sogo[mo]]	ɿsogo	1
2x 蛸 (たこ)	[ta]go	[ta]go[mo]]	ta:go	2
2x 鳩	[ha]do	[ha]do[mo]]	ha:do	2
2x 本 (もと)	[mo]do	[mo]do[mo]]	mo:do	2
2x 夜 (と昼; ~行く)	jo[ru]], <普>[jo:]ma (夜間); [jo:]ma [e]gu.	joru[mo]], jo:[ma]mo	ɿjoru, <普>jo:ma= (夜間)	1, 0
2x 顎 (あご)	a[ngo]] (OK), angota[ta]]	ango[mo]], angota[mo]]	ɿango, ɿangota	1, 1
2x 味	[a]zi	a[zi]mo	azi=	0
2x 仇 (あだ)(を討つ)	x. ka[da]gi (敵)	x. ka[da]gi[mo]]	x. kada:gi (敵)	3
2x 粗 (あら)(を探す)	a[ra]]	ara[mo]]	ɿara	1
2x 以後	x. kore[ga]ra (これから), ko[no]a[do]] (このあと). Cf. [s(j)o`de:] (初手=以前)	x. ko[no]ado[mo]] [s(j)o]de:[mo]]	x. koregara=, konolado Cf. s(j)o:de: (以前)	x. 0, 3 2
2x 椅子 (いす)	i[su]] (OK), <o>kosi. [ka]ge	isu[mo]], kosi. ka[ge]mo	ɿisu, <o>kosi. kage=	1, 0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
2z 一	[e!zi]	[e!zi[mo]]	e.ɹi	2
2z 疣 (いぼ)	e[bo]]	ebo[mo]]	ɛbo	1
2z 唾	[o!so (OK)]	[o!so[mo]]	o.ɹso	2
2z うど (の 大木)	[u!do]	u[do!mo]	udo=	0
2z 運	[[uN]]	uN[mo]]	ɹuN	1
2z 過去	<m>[ka!ko]	[ka]ko[mo]]	<m>ka.ko	2
2z 火事	ka[zi]]	kazi[mo]]	ɹkazi	1
2z 舵 (かじ)	ka[zi]]	kazi[mo]]	ɹkazi	1
2z 空 (から)(だ)	[ka!ra]	ka[ra!mo]	kara=	0
2z 勘	[ka!N]	[kaN!mo]	kaN=	0
2z 缶	[[kaN]], kaN[ka!ra (缶空)]	kaN[mo]], kaN[ka]ra[mo]]	ɹkaN, kaNka.ra (缶空)	1, 4
2z きざ (だ)	<m>[ki!za]	[ki]za[ni]] (～に) か	<m>ki.ɹza	2
2z 規模	ki[bo]]	kibo[mo]]	ɹkibo	1
2z 九 (きゅう) [ク]	x. [[ku, [ko]gonoc[cu]], [ko]gono[zu]]	x. ku[mo]], [ko]gonoccu[mo]] (九つも)	x. ɹku, ko.ɹgonoccu, ko.ɹgonozu	x. 1, 2
2z 金 (の指輪; 将棋)	[kiN]]	kiN[mo]]	ɹkiN	1
2z 癖	ku. [se (OK)]	ku. [se!mo]	ku. se=	0
2z 瘤 (こぶ)	[ko!bu]	ko[bu!mo]	kobu=	0
2z 独楽 (こま)	ko[ma]]	koma[mo]]	ɹkoma	1
2z 冊 (さく)	[sa!gu]	sa[gu!mo]	sagu=	0
2z さぞ (…だろう)	x	x	x	x
2z 三	[sa!N]	[saN!mo]	saN=	0
2z 鹿	si. [ka (OK), <o>aozi[si]] (アオジン)	si. ka[mo]], aozisi[mo]]	si. ɹka, <o>ɹaozisi (アオジン)	2, 1
2z 事故	zi[ko]]	ziko[mo]]	ɹziko	1
2z 紫蘇 (しそ)	[si!so]	si[so!mo]	si. so=	0
2z 七 (しち)[ナナ]	[si!zi, na[na]]	[si]zi[mo]], nana[mo]]	si. zi, ɹnana	2, 1
2z 縞 (しま)	[si!ma]	[si]ma[mo]]	si. ma	2
2z 車庫	sja[ko]]	sja[ko!mo]]	ɹsjako	1
2z 軍鶏 (しゃも)	sja[mo]]	sjamo[mo]]	ɹsjamo	1
2z 十 (じゅう)[トオ]	[[zju:]], [to!:]	zju: [mo]], [to: [mo]]	ɹzju:, to:.	1, 2
2z 図画	zu[nga]]	zunga[mo]]	ɹzunga	1
2z 砂	[su!na]	su[na!mo]	sun=	0
2z スリ	su[ri]]	suri[mo]]	ɹsuri	1
2z 席	<m>se[gi]]	segi[mo]]	<m>ɹsegi	1
2z 咳 (せき)	[se!gi Cf. 堰は[se!ge]	[se]gi[mo]] Cf. [se!ge[mo]]	segi Cf. se.ge (堰)	2
2z 千	[[seN]]	seN[mo]]	ɹseN	1
2z 象 (動)	[zo!:]	[zo: !mo]	zo: =	0
2z 蕎麦 (そば)	so[ba]]	soba[mo]]	ɹsoba	1
2z 虱 (たこ)	[ta!go (=蛸), <o>[teN]ngo:ba[da]]	[ta]go[mo]], [teN]ngo:ba[da[mo]]	ta.go, <o>teN.ngo:ba[da]	2, 3
2z 只 (で)	ta[da]]	tada[mo]]	ɹtada	1
2z ダニ (虫)	[da!ni]	da[ni!mo]	dani=	0
2z 束 (たば)	ta[ba]]	taba[mo]]	ɹtaba	1
2z 鱈 (たら)	ta[ra]]	tara[mo]]	ɹtara	1
2z 樽	[ta!ru]	[ta]ru[mo]]	ta.ru	2
2z 段 (階段; 位)	[[daN]]	daN[mo]]	ɹdaN	1
2z 知恵 (頭の; 人名)	[ci!e; ci[e]]	[ci]e[mo]]; cie[mo]]	ci.e; ɹcie	2; 1
2z 蔓 (つる)(植)	[cu!ru]	cu[ru!mo]	curu=	0
2z 鉄	te[zu]]	tezu[mo]]	ɹtezu	1
2z 出目 (目の出た)	x	x	x	x

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
2z 寺 [お-]	[te!ra, o!de!ra]	te!ra!mo, ode!ra!mo	tera=, odera=	0,0
2z 天	[te!n (OK)]	[te!n!mo]	ten=	0
2z 土砂	<m>[do!sja, <普>[cu!zi (土), [su!na (砂)]	[do!sja!mo], [cu!zi!mo], su!na!mo	<m>do:sja, <普>cu:zi, suna=	2, 2,0
2z 土手	[do!de]	do!de!mo	dode=	0
2z 溝 (どぶ)	[do!bu]	do!bu!mo	dobu=	0
2z どれ (が良い?)	do!re]], do!rea] je:[ba]] (どれが 良い?)	dorega!ra]] (～から), do!re!mo, do!re!mo dame!da]], do!re!mo wa!ga!N!nea]] (どれも分 からない=ダメだ)	ldore, doremo= (否定)	1, 0
2z なお (猶; 尚)	x	x	x	x
2z 謎	na!zo]]	nazo!mo]]	lnazo	1
2z 生 (なま) (で食う; ビール)	na!ma]], 生ビールの略は言わず, na!ma!bi:[ru]].	nama!mo]], na!ma!bi:ru!mo]]	lnama, namabi:ru (～ビール)	1, 3
2z 奈良 (地; 時代)	na!ra]]	nara!mo]]	lnara	1
2z 肉	[ni!gu]	[ni!gu!mo]]	ni:gu	2
2z 垂 (にら)	[ni]:[ra]] (OK)	[ni]:ra!mo]]	ni:ra	2
2z 二羽	ni!wa]], <普>ni!si!gi (二匹) Cf. [ni!tja (庭)	niwa!mo]], ni!si!gi!mo]] ni!ja!mo	lniwa, <普>nisi:gi (二匹) Cf. nija=(庭)	1,3 0
2z 沼	[nu!ma]	[nu!ma!mo]]	nu:ma	2
2z 葱 (ねぎ)	ne!ngi]]	nengi!mo]]	lnengi	1
2z 猫	ne!go]]	nego!mo]]	lnego	1
2z 熱	[ne!zu]	[ne!zu!mo]]	ne!zu	2
2z 喉 (のど)	no!do]]	nodo!mo]]	lnodo	1
2z 糊	[no!ri]	[no!ri!mo]]	no!ri	2
2z 馬鹿	ba!ga]]	baga!mo]]	lbaga	1
2z 禿げ (頭の)	ha!nge]]	hange!mo]]	lhange	1
2z 馬車	ba!sja]]	basja!mo]]	lbasja	1
2z 八	[ha!zi]	[ha!zi!mo]]	ha:zi	2
2z 罰 (が当たる)	[ba!zi, Cf. [ba!cu (罰 ばつ) (OK)	[ba!zi!mo], [ba!cu!mo]]	ba:zi, Cf. ba:cu (ばつ)	2 2
2z 晩	[ba!N, <普>baN!nge!: (OK), baN!nge!:na	[baN!mo, baN!nge!:mo (OK), baN!nge!:na!mo]] (OK)	baN=, <普>baNnge:=, baNnge!:na	0,0, 5
2z 番	[ba!N (OK), baN!pe!: (番兵, 見張り)	[baN!mo, baN!pe!:mo	baN=, baNpe:=(番兵)	0, 0
2z パン	[[paN]], [paN!sjo!gu]] (パン食)	paN!mo]], [paN!sjo!gu!mo]]	lpaN, paN!sjo!gu (パン食)	1, 3
2z 糞 (ひだ)	[si!da]	[si!da!mo]]	si:da	2
2z 雛 (ひな)	si!na]], si!jo!ko (ひよこ)	sina!mo]], sijo!ko!mo	lsina, sijoko=(ひよこ)	1,0
2z 百 (と千; ～ある)	[sja!gu; [sja!gu a!ru]].	[sja!gu!mo]; [sja!gu!mo] a!ru]].	sja:gu; sjagu=	2;0
2z 平 (ひら) (社員)	<m>si!ra]]	sira!mo]]	<m>lsira	1
2z びら (をまく)	[bi!ra]	bi!ra!mo	bira=	0
2z 枇杷 (びわ)	<m>[bi!wa	bi!wa!mo	<m>biwa=	0
2z 瓶 (びん)	[[biN]], biN!zu!me (瓶詰)	biN!mo]], biN!zu!me!mo]]	biN, biNzu:me (瓶詰)	1,4
2z 服	hu!gu]]	hugu!mo]]	lhugu	1
2z 豚	bu!da]] (OK), [bu!dango!ja]] (豚小屋)	buda!mo]], [bu!dango!ja!mo]]	lbuda, bu:dangoja (豚小屋)	1, 2
2z 樵 (ぶな)	bu!na]]	buna!mo]]	lbuna	1
2z 鱒 (ぶり)	bu!ri]]	huri!mo]]	lburi	1
2z 風呂	[hu!ro	[hu!ro!mo]]	hu:ro	2

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
2z 塀 (へい)	[he:!, [e]da[be:]] (板塀)	[he:!mo, [e]dabe:[mo]]	he:=, e:dabe= (板塀)	0,2
2z 変 (に)	[[heN]]	heN[ni]] (に)	!heN	1
2z 棒	[bo:!, bok[ki]re (棒切れ)	[bo:!mo, bokki[re]!mo	bo:=, bakkire= (棒切れ)	0,0
2z 骨	[ho!ne	[ho]ne[mo]]	ho!ne	2
2z ほぼ (〜できた)	<m>ho[bo]], <普>dai[tali, <o>dea[tela (大体)	x. dai[tai]/dea[te]a dege[da]].	<m>!hobo, <普>daitai=, <o>deatea= (大体)	1,0, 0
2z ぼや (を出す)	bo[ja]]	boja[mo]]	!boja	1
2z 捕虜	ho[rjo]]	horjo[mo]]	!horjo	1
2z ぼろ (衣類; が出る)	[bo!ro (OK)	[bo]ro[mo]]	bo!ro	2
2z 本 (ほん)	[[hoN]], [hoN!ja (本屋)	hoN[mo]], [hoN]ja[mo]]	!hoN, hoN!ja (本屋)	1,3
2z 盆 (行事; 容物)	[[boN]], [boN]odo[ri]] (盆踊); [お-]	boN[mo]], [boN]odori[mo]]; [boN!mo, o[boN]mo	!boN, boN!odori (盆踊); boN=, oboN=	1,3; 0,0
2z 鱒 (ます)	[ma!su. Cf. [ma!su (升)	ma[su!mo. Cf. [ma]su[mo]]	masu=, Cf. masu (升)	0,2
2z まだ (だ)	[ma:]da]]	[ma:]da[da]] (だ)	ma!:da	2
2z 万 (数)	[[maN]], [maN]nga[ne]] (万金)	maN[mo]], [maN]ngane[mo]]	!maN, maN!ngane (万金)	1, 3
2z 溝 (みぞ)	<m>[mi!zo, <普>se[ge]] (堰)	mi[zo!mo, sege[mo]]	<m>mizo=, <普>!sege (堰)	0, 1
2z 蜜	bazino[alme (蜂の飴), bazi[alme	bazinoa[me!mo, bazia[me!mo	bazinoame= (蜂の飴), baziame=	0, 0
2z 無茶 (だ)	[mu!cja	[mu]cja[mo]]	mu!cja	2
2z もし (…なら)	mo[si]]	mosi[mo]]	!mosi	1
2z 百舌 (もず) (鳥)	mo[zu]]	mozu[mo]]	!mozu	1
2z 餅	mo[zi! (OK) (もちひ), a[wa]mo[zi:]] (栗餅), ku.[sa]mo[zi:] (草餅), ko[me]mo[zi:] (米餅), so[ba]mo[zi:] (蕎麦餅)	mo[zi!mo, a[wa]mozi:[mo]], ku.[sa]mozi:[mo]], ko[me]mozi:[mo]], so[ba]mozi:[mo]]	mozi:=, awa!mozi: (栗餅), ku.sa!mozi: (草餅), kome!mozi: (米餅), so!ba!mozi: (蕎麦餅)	0, 3, 3, 3, 3
2z 門 (もん)	[[moN]]	moN[mo]]	!moN	1
2z 山羊 (やぎ)	ja[ngi]]	jangi[mo]]	!jangi	1
2z 自棄 (やけ) (になる)	<m>ja[ge]]	jage[mo]]	<m>!jage	1
2z 痩せ (の大きい; が目立つ)	ja[se]]	jase[mo]]. jase[no] o:[ngu]]; jasea [me]da[zu]].	!jase	1
2z 屋根	ja[ne]], totaN[ja!ne (トタン~)	jane[mo]], totaNja[ne!mo	!jane, totaNjane=	1,0
2z やや (〜良い)	ja[ja]], <普>naN[bo:ga (いくらか)	jaja[mo]], naN[bo:]ga [[je:]]	!jaja, <普>naNbo:ga=	1, 0
2z 湯気	[ju!nge	[ju]nge[mo]]	ju!nge	2
2z 酔い (が回る)	[jole. [jo]ea [ma:ru.	[jo]e[mo]]	jole	2
2z 用 (がある)	[jo!:. [jo]:[a] a[ru]].	[jo]:[mo]]	jo!:	2
2z 理科	ri[ka]]	rika[mo]]	!rika	1
2z 蠟 (ろう)	<m>[ro:]→蠟燭	ro:[mo]]	!ro:	1
2z 六	[ro!gu	[ro]gu[mo]]	ro!gu	2
2z 驢馬 (ろば)	ro[ba]]	roba[mo]]	!roba	1
2z 和歌	<m>wa[ka]]	waka[mo]]	<m>!waka	1
31 田舎 (いなか)	e[na!ga	ena[ga!mo	enaga=	0
31 鯛 (いわし)	ju[wat!si (OK)	juwa[si!mo	juwasi=	0
31 嗽 (うがい)	u[nga!e (OK)	unga[e!mo	ungae=	0
31 漆 (うるし)	u[ru!si	uru[si!mo	urusi=	0
31 踊り	o[do!ri	odo[ri!mo	odori=	0
31 飾り	ka[za!ri, kazari[mo!no (飾り物)	ka[za]ri[mo]], kazari[mo]no[mo]]	kaza!ri, kazari!mo!no (飾り物)	3, 5
31 形	ka[da!zi	kada[zi!mo	kadazi=	0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
31 鯉 (かつお)	ka[zu!o (<x>kazu)	kazu[o!mo	kazuo=	0
31 着物	ki[mo!no	ki[mo]no[mo]]	kimo.no	3
31 鎖	ku _o [sa!ri	ku _o [sa]ri[mo]]	ku _o .sa.ri	3
31 車	ku[ru!ma	kuru[ma!mo	kuruma=	0
31 煙	ke[bu!ri (OK)	kebu[ri!mo	keburi=	0
31 氷	<n>[ko!ri, <普>[si!nga. かき氷 はずつと後, taurusi(つらら)を舐 めたが, それはsi[nga!ko.	ko:[ri!mo, [si]nga[mo]], si[nga]ko[mo]]	<n>ko:ri=, <普>si!nga, singa.ko	0, 2, 3
31 今年 (ことし) (は; ~行く)	ko[do!si. ko[do]si [e!gu.	kodo[si!mo	kodosi=	0
31 子供	wa[ra!si	wa[ra]si[mo]]	warasi	3
31 魚	sa[ga!na	saga[na!mo	sagana=	0
31 桜	sa[gu!ra	sagu[ra!mo	sagura=	0
31 障子 (しょうじ)	[sjo:!zi	sjo:![zi!mo	sjo:zi=	0
31 印	si[ru!si	siru[si!mo	sirusi=	0
31 相撲 (すもう)	[su!mo (OK)	[su]mo[mo]]	su.mo	2
31 畳	ta[da!mi	tada[mi!mo	tadami=	0
31 序 (ついで)(に)	[cu:!de (OK)	cu:[de!N (に)	cu:de=	0
31 机	cu[gu!e	cugu[e!mo	cugue=	0
31 隣	to[na!ri	tona[ri!mo	tonari=	0
31 名前	na[me!a	na[mea!mo	namea=	0
31 寝言	ne[ngoldo	nengo[do!mo	nengodo=	0
31 初め	ha[zi!me, <m>ha[si!me	hazi[me!mo, hasi[me!mo	hazime=, <m>hasime=	0,0
31 鼻血	ha[na!zi	hana[zi!mo	hanazi=	0
31 羊	meN[jo! (綿羊)	meN[jo:!mo	meNjo:= (綿羊)	0
31 二日 (ふつか)(に; ~待つ)	[hucu _o !ka. [hucu _o]ka ma[zu]].	hucu _o [ka!mo	hucu _o .ka=	0
31 埃 (ほこり)	ho[go!ri	hogo[ri!mo	hogori=	0
31 味方	mi[ga!da	mi[ga]da[mo]] (OK)	miga.da	3
31 三日 (に; ~待った)	[mik!ka; [mik]ka mat[ta]].	mik[ka!mo	mikka=	0
31 港	mi[na!do	mina[do!mo	minado=	0
31 昔 (と今; ~見た)	mu[ga!si; mu[ga]si mi[da]].	muga[si!mo	mugasi=	0
31 息子 (むすこ)	[musu _o !ko	musu _o [ko!mo	musu _o .ko=	0
31 柳	ja[na!ngi	jana[ngi!mo	janangi=	0
31 涎 (よだれ)	be[ro]] (舌の意にあらず)	bero[mo]]	bero	1
32 小豆 (あずき)	a[zu!gi	azu[gi!mo	azugi=	0
32 女	o[na!ngo (女子)	ona[ngo!mo	onango=	0
32 毛抜き	ke[nu!gi	kenu[gi!mo	kenugi=	0
32 東	si[nga!si	si[nga]si[mo]]	singa.si	3
32 二重 (ふたえ)	hu _o [ta!e, hu _o .taema[bu!zi (二重目縁=目 蓋)	hu _o [ta]e[mo]], hu _o .taemabu[zi!mo, hu _o .taema[bu]zi[mo]] ともに	hu _o .ta.e, hu _o .taemabuzi=, hu _o .taemabuzi (~目蓋)	3, 0, 6
32 二つ (で; ~ある)	hu _o [tac!cu; hu _o [tac]cu a[ru]].	hu _o [tac]cu[mo]]	hu _o .tac.cu; hu _o .taccu=	4;0
32 二人 (で; ~いる)	hu _o [ta:ri; hu _o [ta:]ri [i!ru/[e!ru.	hu _o [ta:]ri[mo]]	hu _o .ta:ri; hu _o .ta:ri=	4;0
32 三つ (で; ~ある)	[mic!cu; [mic]cu a[ru]].	[mic]cu[mo]]	mic.cu; miccu=	3;0
32 娘	mu[su!me	musu[me!mo	musume=	0
32 タベ (は; ~見た)	ju:[be]], ju:be[na]] (昨晚), ju:[be]/ju:be[na] mi[da]]; Cf. baN[ngel: (以下, 晩方の意)	ju:be[mo]], ju:bena[mo]]; ju:banamo [e!da. (昨晚もいた)	uju:be, uju:bena (昨晚)	1,1
	baNnge:[ka!da, baNnge:[na	baN[ngel:mo, baNnge:ka[da!mo, baNnge:[na!mo	Cf. baNnge:= (晩方), baNnge:kada=, baNnge:na=	0, 0, 0
33 小麦	ko[mu!ngi	komu[ngi!mo	komungi=	0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
33 力	ci _o [kaɽra]	ci _o .ka[raɽmo]	ci _o .kara=	0
34 明日 (は; ~来る)	asi[nat]ta; asi[nat]ta ku[ru]], <m>[aɽsu]	asi[nat]ta[mo]], [a]su[mo]]	asinat.ta; asinata=, <m>:asu	5;0, 1
34 頭	a[daɽma]	a[da]ma[mo]]	ada.ma	3
34 団扇 (うちわ)	u[ziɽwa]	u[zi]wa[mo]]	uzi.wa	3
34 男	o[doɽgo]	o[do]go[mo]]	odo.go	3
34 表 (おもて) [面]	o[moɽde]	o[mo]de[mo]]	omo.de	3
34 鏡	ka[ngaɽmi]	ka[nga]mi[mo]]	kang.a.mi	3
34 敵 (かたき)	ka[daɽgi]	ka[da]gi[mo]]	kada.gi	3
34 刀	ka[daɽna]	ka[da]na[mo]]	kada.na	3
34 鉋 (かんな)	[kaNɽna]	[kaN]na[mo]]	kaN.na	3
34 昨日 (は; ~来た)	kiN[noɽ:; kiN[no]: ki _o .[ta]], kiN[no]:na; kiN[no]:na ki _o .[ta]].	kiN[no]:[mo]], kiN[no]:na[mo]]	kiNno.:; kiNno:=, kiNno.:na; kiNno:na=	4;0, 5;0
34 言葉	ko[doɽba]	ko[do]ba[mo]]	kodo.ba	3
34 唇	ko[joɽmi]	ko[jo]mi[mo]]	kojou.mi	3
34 境	sa[gea]]	sagea[mo]]	sa.gea	1
34 白髪 (しらが)	sira[ngaɽ: (OK)	sira[nga]:[mo]]	siranga:	4
34 硯 (すずり)	su[zuri]	su[zuri]ri[mo]]	suzu.ri	3
34 宝	ta[gaɽra, tagara[moɽno (宝物, む しろ馬鹿息子の意が普通)	ta[ga]ra[mo]], tagara[moɽno[mo]]	taga.ra, tagaramo.no (馬鹿息子)	3, 5
34 助け (を呼ぶ)	[tasu _o .]ke	[tasu _o .]ke[mo]]	tasu _o .ke	3
34 谷間	<m>:ta[niɽma, <普>[saɽ: (沢)	tani[maɽmo, [sa]:[mo]]	<m>:tanima=, <普>:sa: (沢)	0, 2
34 頼み (がある)	ta[noɽmi]	ta[no]mi[mo]]	tano.mi	3
34 俵	[ta:ɽra. kome[da]:[ra]] (米俵)	[ta:ɽra[mo]]. kome[da]:ra[mo]]	ta:ra. kome.da:ra (米俵)	3 4
34 包み (を開く)	cu[zumi]	cu[zumi]mi[mo]]	cuzu.mi	3
34 鯰 (なまず)	na[maɽzu]	na[ma]zu[mo]]	nama.zu	3
34 匂い [臭]	ka[nguɽtri (動詞 ka[nguɽru 嗅ぐ)	kangu[riɽmo	kanguri=	0
34 縫い目	[nuɽime	[nuɽime[mo]]	nuɽi.me	3
34 鉢	ha[saɽmi]	ha[sa]mi[mo]]	hasa.mi	3
34 林	ha[jaɽsi]	ha[ja]si[mo]]	haja.si	3
34 光	si _o .[kaɽri]	si _o .[ka]ri[mo]]	si _o .ka.ri	3
34 袋	hu[guɽro]	hu[gu]ro[mo]]	hugu.ro	3
34 襖 (ふすま)	hu[suɽma]	hu[su]ma[mo]]	husu.ma	3
34 蓆 (むしろ)[筵]	mo[siɽro (OK)	mo[si]ro[mo]]	mosi.ro	3
35 朝日	[a]sa[si]]	[a]sasi[mo]]	a.sasi	2
35 油	[a]bu[ra]]	[a]bura[mo]]	a.bura	2
35 鮑 (あわび)	[aɽbi (OK), api _o .[toɽri (鮑採り), api _o .keaka[kaɽra (鮑の貝殻)	a[biɽmo, api _o .to[riɽmo, api _o .keaka[raɽmo]	abi=, api _o .tori= (鮑採り), api _o .keakara= (鮑貝殻)	0,0, 0
35 哀れ	[a]wa[re]], mici _o .ko[do]]	[a]ware[da]], mici _o .kodo[da]] (~だ)	a.ware, mici _o .kodo	2, 1
35 五つ (に; ~ある)	[e]zuc[cu]], [e]zu[zu]] [e]zuc[cu] a[ru]]	[e]zuccu[mo]], [e]zuzu[mo]]	e.zuccu, e.zuzu	2
35 従兄弟 (いとこ)	edo[go]]	edogo[mo]]	edogo	1
35 命	[i]no[zi]]	[i]nozi[mo]]	i.nozi	2
35 親子	[o]ja[go]], [o]ja[ko]] も	[o]jago[mo]], [o]jako[mo]]	o.jago, o.jako	2
35 神楽 (かぐら)	[ka]ngu[ra]]	[ka]ngura[mo]]	ka.ngura	2
35 鱧 (かれい)	ka[re:]]	kare:[mo]]	ka.re:	1
35 胡瓜 (きゅうり)	[kju:ɽri]] (OK), u[ri]]	[kju:ɽri[mo]], uri[mo]]	kju:ri, luri	2,1
35 心	[ko]go[ro]]	[ko]goro[mo]]	ko.goro	2
35 柘榴 (ざくろ)	<m>:zaku[ro]]	zakuro[mo]]	<m>:zakuro	1

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
35 姿	su[nga]da	sunga[da]mo	sungada=	0
35 簾 (すだれ)	su[da]re	su[da]re[mo]]	sudare	3
35 樺 (たすき)	[tasu _u]ki	[tasu _u]ki[mo]]	tasu _u ki	3
35 情け	na[sal]ge	na[sal]ge[mo]]	nasalge	3
35 涙	na[mi]da, <普>[mec]ci[ru]] (目汁)	na[mi]da[mo]], [mec]ciru[mo]]	namida, <普>mec.ciru (目汁)	3, 3
35 柱	ha[sil]ra	ha[sil]ra[mo]]	hasira	3
35 単衣 (ひとえ)	<m>si _u [tole (最初はhi _u to[e])]	si _u [to]e[mo]] (hi _u toe[mo]])	<m>si _u toe	3
35 火箸	[si]ba[si]]	[si]basi[mo]]	si.basi	2
35 箸 (ぼうき)	[ha]:[gi]] (OK)	[ha]:gi[mo]]	ha:gi	2
35 枕	[ma]gu[ra]]	[ma]gura[mo]]	ma.gura	2
35 紅葉 (もみじ)	[mo]mi[zi]], i[da]ja (木の種類【板屋楓か】)	[mo]mizi[mo]], i[da]ja[mo]]	mo.mizi, ida.ja	2, 3
35 山葵 (わさび)	wa[sal]bi	wa[sal]bi[mo]]	wasabi	3
36 菖蒲 (あやめ)	[a]ja[me]]	[a]jame[mo]]	a.jame	2
36 兎	usa[ngi]]	usangi[mo]]	usangi	1
36 鰻	una[ngi]]	unangi[mo]]	unangi	1
36 大人 (おとな)	ozu[na]] (OK)	ozuna[mo]]	ozuna	1
36 鷗 (かもめ)	kamo[me]]	kamome[mo]]	kamome	1
36 狐	kizu[ne]]	kizune[mo]]	ikizune	1
36 虱 (しらみ)	[si]ra[mi]]	[si]rami[mo]]	si.rami	2
36 芒 (すすき)[薄]	ka[jal] (OK). Cf. [ha!ngi (萩)	kaja[mo]]. [ha]ngi[mo]]	ika.ja. Cf. ha.ngi (萩)	1. 2
36 雀	suzu[me]]	suzume[mo]]	usuzume	1
36 李 (すもも)	sumo[mo]]	sumomo[mo]]	sumomo	1
36 背中	hena[ga]] (OK). he[na]gaa[de]] (背中当て. 荷物 用の他に、蕎麦の種類も)(OK)	henaga[mo]]. he[na]gaade[mo]]	henaga. henagaade (背中当て)	1. 3
36 高さ	[ta]ga[sal]	[ta]gasa[mo]]	tagasa	2
36 団子 (だんご)	daN[ngo]]	daNngo[mo]]	daNngo	1
36 田圃 (たんぼ)	taN[bo]]	taNbo[mo]]	taNbo	1
36 燕 (つばめ)	cuba[me]]	cubame[mo]]	cubame	1
36 長さ	[na]nga[sal], na[nga]sa も	[na]ngasa[mo]], na[nga]sa[mo]]	na.ngasa, nangasa	2, 3
36 鼠	nezu[mi]]	nezumi[mo]]	nezumi	1
36 裸	hada[ga]]	hadaga[mo]]	hadaga	1
36 跣足 (はだし)[裸足]	haNda:si]] (OK)	haNda:si[mo]]	haNda:si	1
36 左	sida[ri]]	sidari[mo]]	sidari	1
36 雲雀 (ひばり)	[si]ba[ri]] (方言あったか?)	[si]bari[mo]]	si.bari	2
36 広さ	si[ro]sa	siro[sal]mo	sirosa=	0
36 蚯蚓 (みみず)	meme[zu]] (OK)	memezu[mo]]	memezu	1
36 蓬 (よもぎ)	jumu[ngi]] (OK), jumu[ngi]mozi:] (蓬餅)	jumungi[mo]], jumu[ngi]mozi:]mo]]	ijumungi, jumugi.mozi:] (蓬餅)	1, 4
37 葎 (いちご)	ezi[ngo]] (OK)	ezingo[mo]]	ezingo	1
37 後ろ	osi[ro]] (OK)	osiro[mo]]	losiro	1
37 蚕 (かいこ)	[to:]do[go]]	[to:]dogo[mo]]	to.dogo	3
37 兜	<m>kabu[to]] (OK)	kabuto[mo]]	<m>kabuto	1
37 辛子 (からし)	<m>ka[ra]si, <普>naN[ba]N (南蛮)	ka[ra]si[mo]], naN[ba]N[mo]]	<m>karasi, <普>naNba.N (南蛮)	3, 4
37 鯨	kuzi[ra]]	kuzira[mo]]	ikuzira	1
37 菓	kusu[ri]]	kusuri[mo]]	ikusuri	1
37 卵	[ta]ma[ngo]]	[ta]mango[mo]]	ta.mango	2

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
37 便り	<m>ta[ɔ]ri, <普>[o]do (音)	ta[ɔ]ri[mo]], o[do]mo	tajo.ri, <普>odo=	3, 0
37 鹽 (たらい)	ta[rea]]	tarea[mo]]	ɽtarea	1
37 椿	[cu]ba[ki]] (OK)	[cu]baki[mo]]	cubaki	2
37 鉛	nama[ri]]	namari[mo]]	ɽnamari	1
37 畑	hada[ge]]	hadage[mo]]	ɽhadage	1
37 一つ (～ある; も無い)	hu. _s toc[cu]], hu. _s to[zu]], si. _s toc[cu]], si. _s to[zu]]. hu. _s toc[cu]/si. _s toc[cu] a[ru]]. Cf. hu. _s todo[si]] (同い年)	hu. _s toccu[mo]], hu. _s tozu[mo]], si. _s toccu[mo]], si. _s tozu[mo]]. si. _s toccu[mo˘nea]] hu. _s todosi[mo]]	ɽhu. _s toccu, ɽhu. _s tozu, ɽsi. _s toccu, ɽsi. _s tozu. Cf. ɽhu. _s todosi (同い年)	1, 1 1, 1 1
37 一人 (～来る; も無い)	hu. _s to[ri]], si. _s to[ri]]. hu. _s to[ri]/si. _s to[ri] ku[ru]] (来)	hu. _s tori[mo]], si. _s tori[mo˘nea]]	ɽhu. _s tori, ɽsi. _s tori	1
37 緑 (色; 人名)	a[o]] (青); [mi]do[ri]]	ao[mo]]; [mi]dori[mo]]	ɽao; mi.dori	1;2
37 病い	jaNmea]], jaNmea[to]] (病人)	jaNmea[mo]], jaNmeato[mo]]	ɽjaNmea, ɽjaNmeato (病人)	1, 1
3x 間	[ea]da, ea[da]ko	[ea]da[mo]], ea[da]ko[mo]]	ea.da, eada.ko	3,4
3x 欠伸 (あくび)	a[gu]bi	a[gu]bi[mo]]	agu.bi	3
3x 嵐	a[ra]si, o:[ga]ze	a[ra]si[mo]], o:[ga]ze[mo]]	ara.si, o:ga.ze	3,4
3x 柏	ka[si]wa, <普>ka[sira]ngi (柏木)(OK). 名字・屋号では kasi[wa]ngi	kasi[wa]mo, kasira[ngi]mo. kasiwa[ngi]mo	kasiwa=, <普>kasirangi= (柏木). kasiwangi= (人名)	0, 0 0
3x 烏 (からす)	kara[su]]	karasu[mo]]	ɽkarasu	1
3x 栄螺 (さざえ)	<m>[sa]za[e]] (採れず), まとめて<普>cu[bu]].	[sa]zae[mo]], cubu[mo]]	<m>sa.zae, <普>ɽcubu	2, 1
3x 狸	tanu[gi]], <普>ku. _s [sea]] (臭). Cf. e[da]zi (いちち)	tanugi[mo]], ku. _s sea[mo]]. e[da]zi[mo]]	ɽtanugi, <普>ku. _s sea. Cf. eda.zi (いちち)	1, 1 3
3x 翼	<m>cu[ba]sa, <普>[ha]ne (飛行機のも)	cu[ba]sa[mo]], ha[ne]mo	<m>cubasa, <普>hane=	3, 0
3x 釣瓶 (つるべ)	cu[ru]be	curu[be]mo	curube=	0
3x 蜥蜴 (とかげ)	kana[he]bi	kanahe:[bi]mo	kanahe:bi=	0
3x 仲間	na[ga]ba (友達の意味で頻用)	naga[ba]mo	nagaba=	0
3x 斜め	[na]na[me]]	[na]name[mo]]	na.name	2
3x 二十歳 (はたち)	<m>ha[da]zi, <普>niN[zju:] (OK)	ha[da]zi[mo]], niN[zju:]mo]]	<m>hada.zi, <普>niNzju:.	3, 4
3x 薙 (ふもと)	<m>hu[mo]do, <普>[ja]manosu[so], [ja]manosi. _s [ta (山の裾, 下)	hu[mo]do[mo]], [ja]manosu[so]mo, [ja]manosi. _s [ta]mo	<m>humo.do, <普>ja.mano suso=, ja.mano si. _s ta=	3, 2+0, 2+0
3x 蛭	hoda[ru]]	hodarum[mo]]	ɽhodarum	1
3x 御典 (みこし)	mi[go]si	migo[si]mo	migosi=	0
3x 南 (方角; 人名)	mi[na]mi (名字, 屋号も)	mi[na]mi[mo]]	mina.mi	3
3x 向 (むこう)	mo[go]: (OK)	mo[go]:mo	mogo:=	0
3x 盲	mek[ko]:	mek[ko]:[mo]]	mekko:.	4
3x 草鞋 (わらじ)	wa[ra]zi	wa[ra]zi[mo]]	warazi	3
3x 蕨 (わらび)	wa[ra]bi	wa[ra]bi[mo]]	warabi	3
3z 通草 (あけび)	a[gu]bi (欠伸と同音)	a[gu]bi[mo]]	agu.bi	3
3z 罨 (えくぼ)	<x>eku[bo]]	ekubo[mo]]	<x>ɽekubo	1
3z 榎 (木; 茸)	[e]no[gi]]	[e]nogi[mo]]	e.nogi	2
3z 垣根	ka[gi]ne	kagi[ne]mo	kagine=	0

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
3z 瓦	[ka]wa[ra]] (OK). ただし jane[nga]:[ra]] (屋根瓦). Cf. 河原は [ka:ra のみ	[ka]wara[mo]], jane[nga]:ra[mo]]. ka:[ra]mo (河原)	ka.wara, janenga:ra (屋根瓦). Cf. ka:ra= (河原)	2, 4, 0
3z 楔 (くさび)	ku. _s [sa]bi	ku. _s [sa]bi[mo]]	ku. _s sa.bi	3
3z 毛虫	gea[da]ga	gea[da]ga[mo]]	geada.ga	4
3z 獣 (けもの)	<m>ke[mo]no. 個別に言う か jamano[mo]no (山の者).	kemo[no]mo, jamano[mo]no[mo]]	<m>kemono=, jamanomo.no (山の者)	0, 5
3z 黄金 (こがね)	<m>ko[nga]ne. Cf. ko[nga]ne (小金)	ko[nga]ne[mo]]. konga[ne]mo (小金)	<m>kongane. Cf. kongane= (小金)	3, 0
3z 梢 (こずえ)(木の; 人名)	<x>ko[zu]e, <普>[sa]gi (先), [saki:ko; <m>ko[zu]e (人名)	kozu[e]mo, sa[gi]mo, saki. _s [ko]mo; ko[zu]e[mo]]	<x>kozue=, <普>sagi=, saki. _s ko=; <m>kozue	0, 0,0; 3
3z 木霊 (こだま)	<x>ko[da]ma (新幹線のみ). <m>jamabi[ko]] (何か方言があったか)	koda[ma]mo か. jamabiko[mo]]	<x>kodama=, <m>jamabiko	0, 1
3z 牛蒡 (ごぼう)	goN[bo:]], goNbo:[ho]tri (子の駄々こね=牛 蒡掘りは手がかかることから)	goNbo:[mo]], goNbo:[ho]ri[mo]]	goNbo:., goNbo:houri (子の駄々こ ね)	1, 6
3z 小道	<x>ko[mi]ci, <普>hosogea[do:]] (細街道)	komi[ci]mo, hosogea[do:]]	komici=, hosogea[do:]] (細街道)	0, 1
3z 蠅 (さそり)	sa[sori]	saso[ri]mo	sasori=	0
3z 簀子 (すのこ)	[su]no[go]]	[su]nogo[mo]]	sunogo	2
3z そば屋	so[ba]ja	so[ba]ja[mo]]	soba.ja	3
3z 扉	<m>to[bi]ra, <普>[[to (戸)	tobi[ra]mo, [to]mo	<m>tobira=, <普>to= (戸)	0, 0
3z ノッポ (背高)	x. na[nga]ra (長棒の意)	x. na[nga]ra[mo]]	x. nangara (長棒)	3
3z 睫毛 (まつげ)	[ma]zu[nga]]	[ma]zunge[mo]]	mazunge	2
3z マッチ	mac[ci]], <o>cu. _s ke[ngi]] (付け木)	macci[mo]], cu. _s kengi[mo]]	macci, <o>cu. _s kengi (付け木)	1, 1
3z 蜜柑 (みかん)	me[gaN]] (OK)(当時は貴重品), <o>mega[nu]] (OK)	megaN[mo]], meganu[mo]]	megaN, <o>meganu	1, 1
3z 岬	<m>mi[sagi (地名でくらしい), <普>[ha]na (端)	misa[gi]mo, ha[na]mo	<m>misagi=, <普>hana= (端)	0, 0
3z 皆 (で; ~来た)	[miN]na, [miN]na ki. _s [ta]],	miN[na]mo, miN[na]de [e]gu, miN[nasi. _s ite (~して=~で)	miNna=, miNnasi. _s te=	0, 0
3z 百足 (むかで)	<m>mu[ga]de (方言あったか?)	mu[ga]de[mo]]	<m>mugade	3
3z 林檎 (りんご)	[riN]ngo	[riN]ngo[mo]]	riNngo	3
3z 若布 (わかめ. 海藻)	[wa]ga[me]]. ko[bu]] (昆布), si[nori (布海苔), me[ka]bu (めかぶ)ともまとめて [[me. me[ga]ri (め刈り)	[wa]game[mo]]. koku[mo]], sino[ri]mo, meka[bu]mo, [me]mo. mega[ri]mo.	waga.me, koku, sinori= (布海苔), mekabu=(めかぶ), me=, megari= (め刈り)	2, 1,0, 0, 0.0
4z 合い鍵	<m>ai[ka]ngi (鍵かけず), <普>cu. _s [pa]ri (突っ張り)	ai[ka]ngi[mo]], cu. _s [pa]ri[mo]]	<m>aikangi, <普>cu. _s pa.ri (突っ張り)	4 3
4z 朝顔	a[sa]nga[o]]	a[sa]ngao[mo]]	asa.ngao	3
4z 足音	asi[o]do	asi[o]do[mo]]	asio.do	4
4z 甘酒	ama[za]ge, <x>-sage. Cf. dobu[ro]gu (濁酒)	amaza[ge]mo doburo[gu]mo	amazage= Cf. dobuogu= (濁酒)	0 0
4z 編み物	ami[mo]no	ami[mo]no[mo]]	amimo.no	4
4z 雨降り	ame[hu]ri	ame[hu]ri[mo]]	amehu.ri	4
4z 猪 (いのしし)	ino[si]si. Cf. [si]si は鹿.	ino[si]si[mo]]. [si]si[mo]]	inosi.si. Cf. si.si (鹿)	4. 2
4z 鶯 (うぐいす)	[u]ngui[su]]	[u]nguisu[mo]]	u.nguisu	2
4z 渦巻き	uzu[ma]gi	uzu[ma]gi[mo]]	uzuma.gi	4

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
4z 梅干し	ume[bo!si]	umebo[si!mo]	umebosi=	0
4z 弟	o[do:]to	o[do:]to[mo]]	odo:to	4
4z 音楽	oNngagu[gu]]	oNngagu[mo]]	oNngagu	1
4z 金持ち	kane[mo!zi]	kanemo[zi!mo]	kanemozi=	0
4z 螭螂 (かまきり)	kama[ki!ri, <o>ebo[to]rimu[si]] (虎取り虫)	kama[ki]ri[mo]], ebo[to]rimusi[mo]]	kamakiri, <o>eboto.rimusi (虎取り 虫)	4 4
4z 剃刀 (かみそり)	kami[su!ri (OK)	kami[su]ri[mo]]	kamisuri	4
4z 雷	kami[na!ri, <o>reasa[ma]] (雷様)	kami[na]ri[mo]], reasama[mo]]	kaminari, <o>reasama (雷様)	4 1
4z 唐傘 (からかさ)	<m>ka[ra]ga[sa]], <普>ka[sa]]	ka[ra]gasa[mo]], kasa[mo]]	<m>kara.gasa, <普>ゝkasa	3 1
4z ガラス戸	gara[su!do	gara[su]do[mo]]	garasu.do	4
4z 記念日	[ki]neN[bi]], <o>[hu]sibu[si]] (節々) 等か	[ki]neNbi[mo]], [hu]sibusi[mo]]	ki.neNbi, <o>hu.sibusi (節々)	2 2
4z 兄弟	kjo:[dea]], kjo:dea[ma!gi (兄弟家系)	kjo:dea[mo]], kjo:dea[ma]gi[mo]]	ゝkjo:dea, kjo:deama.gi (兄弟家系)	1 6
4z 薬屋	kusuri[ja]], kusu[ri]ba[go]] (薬箱), kusu[ri]ju[bi]] (薬指)	kusurija[mo]], kusu[ri]bago[mo]], kusu[ri]jubi[mo]]	ゝkusurija, kusuri.bago (薬箱), kusuri.jubi (薬指)	1 4 4
4z 口笛	oso[be]] (夜は不吉とされた)	osobe[mo]]	ゝosobe	1
4z 黒んぼ	[ku]roN[bo]]	[ku]roNbo[mo]]	ku.roNbo	2
4z 蝙蝠 (こうもり) (動; 傘)	ko:mo[ri]] (動物のみ); ko:mo[ri]nga[sa]] (-傘が必須)	ko:mori[mo]]; ko:mo[ri]ngasa[mo]]	ゝko:mori; ko:mori.ngasa	1; 5
4z コスモス	kosumo[su]]	kosumosu[mo]]	ゝkosumosu	1
4z 小麦粉	komu[ngi!ko	komungi[ko!mo	komungiko=	0
4z 蒟蒻 (こんにゃく)	koN[nja!gu	koN[nja]gu[mo]]	koNnja.gu	4
4z 坂道	[sa]gami[zi]], [gak!ke (崖)	[sa]gamizi[mo]], [gak]ke[mo]]	sa.gamizi, gak.ke (崖)	2 3
4z 座蒲団 (ざぶとん)	[za]pu. toN]]	[za]pu. toN[mo]]	za.pu. toN	2
4z 三月	saNnga[zu]]	saNngazu[mo]]	ゝsaNngazu	1
4z 椎茸	si:da[ge]]	si:dage[mo]]	ゝsi:dage	1
4z 正月	sjo:[nga!zu (オ-は付けず), boNsjo:nga[zu]] (盆正月)	sjo:[nga]zu[mo]], boNsjo:ngazu[mo]]	sjo:ngazu, ゝboNsjo:ngazu (盆正月)	4, 1
4z スリッパ	[su]rip[pa]], surip[pa]]. (suri[pa])の人も、枕木 の元の木の意味と同形, cuk[ka!ge (総称. 突っ掛け)	[su]rippa[mo]], surippa[mo]], (suripa[mo])), cukka[ge!mo	su.rippa, ゝsurippa, (ゝsuripa の人も) cukbage (突っ掛け)	2, 1, (1) 0
4z 先生	[se]N[se:]]] (<x>sje-)	[se]Nse:[mo]]	se.Nse:	2
4z 洗濯	seN[da!gu (衣類, 衣装の意. 通常の洗濯にも言わないことも ないが, <普>area[mo!no)	seN[da]gu[mo]], areamo[no!mo	seNda.gu, <普>areamono= (洗い 物)	4, 0
4z 玉葱 (たまねぎ)	ta[ma]ne[ngi]]	ta[ma]nengi[mo]]	tama.nengi	3
4z 手袋	[te]bugu[ro]]	[te]buguro[mo]]	te.buguro	2
4z 友達	tomo[da!zi, <普>na[ga!ba (仲間)	tomoda[zi!mo, naga[ba!mo	tomodazi=, <普>nagaba= (仲間)	0 0
4z 土曜日	[do]jo:[bi]]	[do]jo:bi[mo]]	do.jo:bi	2
4z 縄跳び	nawa[to!bi	nawa[to]bi[mo]]	nawato.bi	4

類 見出し	中野 単独.	中野 +moなど.	中野解釈	核
4z 鶏	nɪwa[tɔ!ri, <普>[tɔ!ri. oN[do!ri, meN[do!ri, mec[cju!:(雌鶏), mec[cju!ko	niwato[ri!mo, to[ri!mo. oNdo[ri!mo (OK), meN[do!ri[mo]] (OK), mec[cju:] [mo]], mec[cju:]ko[mo]]	niwatori=, <普>tori=. oNdori=, meNdo!ri, meccju!:(雌鶏), meccju:ko	0,0 0 4 4, 5
4z 人参(にんじん)	neN[zi!nu (OK), neN[zi!n (OK)	neN[zi!nu[mo]], neN[zi!N[mo]]	neNzi!nu, neNzi!n	4, 4
4z 蛤(はまぐり)	[ha]mangu[ri]] (採れない. 砂浜なし)	[ha]manguri[mo]]	ha.manguri	2
4z 歯磨き	[ha]minga[gi]]	[ha]mingagi[mo]]	ha.mingagi	2
4z 針金	ha[ri]nga[ne]]	ha[ri]ngane[mo]]	hari.ngane	3
4z 引っ越し	sik[ko!si	sikko[si!mo	sikkosi=	0
4z 巣(ふくろう)	hugu[ro:]], norosu. [ke]], norosu. [ke]ho:[ho:] (鳴声で)	huguro:[mo]], norosu. ke[mo]], norosu. [ke]ho:ho:[mo]]	!huguro=, !norosu. ke, !norosu. ke lho:ho:	1, 1, 1 + 1
4z 松茸	macu.ta[ge]]	macu.tage[mo]]	!macu.tage	1
4z 右側	mingi[nga!wa	minginga!wa!mo	mingingawa=	0
4z 蜜蜂	[ba!zi のみか ame[ba!zi (飴蜂). Cf. ha[zi]mi[zu]] (蜂蜜), sunga[ri]] (土蜂)	ba[zi!mo, ameba[zi!mo. ha[zi]mizu[mo]], sungari[mo]]	bazi=, amebazi= (飴蜂). Cf. hazi.mizu (蜂蜜), !sungari (土蜂)	0,0 3 1
4z 紫	[mu]rasa[gi]], murasagi[e!ro (紫色), murasagisiN[me]:[zi]] (紫シメジ)	[mu]rasagi[mo]], murasagi[e!ro[mo]], murasagisiN[me]:zi[mo]]	mu.rasagi, murasagi!e!ro, murasagisiNme!zi (紫シメジ)	2, 6, 8
4z もち米	moci. [ko!me, mozi[ngo!me. Cf. uruko[me]] (梗米)	moci. ko[me!mo, mozingo[me!mo. urukome[mo]]	moci. kome=, mozingome=, Cf. !urukome (梗米)	0, 0 1
4z 餅搗き(もちつき)	mozi:[cu!gi (OK)	mozi:cu[gi!mo	mozi:cugi=	0
4z 物置き	mono[o!gi	mono[o]gi[mo]]	monoo!gi	4
4z 来月	rainge[zu]], <o>reange[zu]]	raingezu[mo]], reangezu[mo]]	!raingezu, <o>!reangezu	1, 1
4z 蠟燭(ろうそく)	ro:[so!gu	ro:[so]gu[mo]]	ro:so!gu	4

